

会 告 目 次

研究発表会開催通知	2
第 36 回 ヒューマンインタフェース研究会	2
第 57 回 設計自動化研究会	3
第 66 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会	3
第 83 回 自然言語処理研究会	4
第 50 回 マルチメディア通信と分散処理研究会	5
第 72 回 コンピュータビジョン研究会	7
第 16 回 コンピュータと教育研究会	7
第 34 回 情報システム研究会	8
第 76 回 人工知能研究会	8
第 50 回 グラフィクスと CAD 研究会	9
第 9 回 人文科学とコンピュータ研究会	10
第 1 回 情報メディア研究会 (新設)	10
第 83 回 データベース・システム研究会	11
第 21 回 情報学基礎研究会	11
第 21 回 アルゴリズム研究会	12
平成 3 年度研究会のお知らせ	14
情報メディア研究会発足のお知らせ	16
ソフトウェア基礎論研究会・プログラミング言語研究会統合のお知らせ	17
研究発表会開催予定 (1991 年 4 月～1992 年 3 月)	18
情報処理学会第 43 回全国大会実施要領	22
特集 グラフィクス論文募集 情報処理学会欧文誌	24
「並列処理シンポジウム JSPP '91」開催について	27
「オブジェクト指向ソフトウェア技術シンポジウム」開催について	30
本会協賛等の行事案内	31
第 12 回 IEEE 分散処理システム国際会議 (ICDCS-12) の論文募集の案内	33
「DA シンポジウム '91」論文募集	34
「CV '91」論文募集	35
夏のシンポジウムのお知らせ	36
「ソ連科学アカデミ 一般物理研究所研究者とのレーザに関するセミナー」の開催について	36
平成 3 年度第 33 回通常総会の開催について	37
「学協会共通問題に関するパネル討論会」の開催について	37
平成 3 年度各種行事の予定について	38
支部だより	39
新年度にあたって (お願い)	41
学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)	41
海外からの送金方法について	42
第 22 回 画像工学コンファレンス論文募集	43
会 議 案 内	44
教 官 募 集	45
雑 報	46
編 集 室	47

研究発表会開催通知

(平成3年4月15日～5月31日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	4月22日(月)	11:00～16:30	日 電	前号参照
プログラミングー言語・基礎・実践ー	4月26日(金)	9:30～17:00	日 本 I B M	同 上
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	4月26日(金) 4月27日(土)	9:30～17:00 9:30～12:25	機械振興会館	同 上
ヒ ュ ー マ ン イ ン タ フ ェ ー ス	5月9日(木)	13:00～17:00	同 上	下記参照
設 計 自 動 化	5月10日(金)	13:00～17:00	同 上	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ と ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン	5月10日(金)	13:30～17:00	同 上	同 上
自 然 言 語 処 理	5月16日(木) 5月17日(金)	10:30～16:45 10:00～16:15	長 崎 大	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5月16日(木) 5月17日(金)	13:00～17:00 9:00～17:00	山 梨 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5月17日(金)	13:00～16:45	北 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	5月17日(金)	14:00～17:00	機械振興会館	同 上
情 報 シ ス テ ム	5月21日(火)	13:00～17:00	同 上	同 上
人 工 知 能	5月22日(水)	10:30～17:00	同 上	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5月24日(金)	9:30～17:15	東 大	同 上
人 文 科 学 と コ ン ピ ュ ー タ	5月24日(金)	10:00～17:00	日 文 研	同 上
情 報 メ デ ィ ア	5月24日(金)	10:00～17:00	慶 大	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5月24日(金)	10:30～16:30	情 報 大	同 上
情 報 学 基 礎	5月28日(火)	10:00～16:30	機械振興会館	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	5月29日(水)	10:00～17:00	東 大	同 上

◆ 第36回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数：6件)

(主査：安西祐一郎，幹事：井関 治，小川克彦，廣瀬通孝)

日 時 平成3年5月9日(木) 13:00～17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，または JR：浜松町下車，バス：渋谷ー東京タワー線東京タワー，渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車。Tel. 03 (3434) 8211〕

議 題

(1) 手書き入力による数式認識システム

村瀬敦史，福島英洋，曾谷俊男，中川正樹（農工大）

〔概要〕 手書きによる数式認識システムにおける HI および文字認識部について述べる。

(2) ブックメタファを用いた HI 設計ガイドラインデータベース

米村俊一，小川克彦（NTT）

〔概要〕 膨大な数の HI 設計ガイドラインの中から設計者が必要とするガイドラインを効率的に検索するためのデータベースについて，設計コンセプト・機能，および有効性を評価した結果について述べる。

(3) ページめくり機能をもったウィンドウ・インタフェース: Book Window

荒井恭一, 佐藤敬之, 木下 薫, 横山光男, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 マルチウィンドウの新しい利用法として, ページめくり機能を持ったウィンドウ・インタフェースについて述べる.

(4) HOT-CARD による図書情報の検索 一人間指向的電子図書館インタフェースの提案—

小島一仁, 佐藤美佳, 宮沢光政, 横山光男, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 図書カード目録をメタファとして用いて, 人間の空間的記憶を活用できるような電子図書館を提案する.

(5) UI 開発ツール U-face: マルチウィンドウアプリケーション開発への展開

神場知成, 井関 治 (日電), 久松欣一 (日本電気テレコムシステム)

〔概要〕 マルチウィンドウを用いたアプリケーションを効率的に開発するユーザインタフェース開発ツール U-face について述べる.

(6) 伝送情報の構造を考慮したマルチメディア電子メールシステム

東樹康子, 岡田孝文, 小沢英昭, 安西祐一郎 (慶大)

〔概要〕 手紙には地図等の副次的な情報を含むことがあるが, アイコンとデータベースにより副次的な情報を効果的に伝達する電子メールシステムを提案する.

◆ 第57回 設計自動化研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 小澤時典, 幹事: 川戸信明, 佐藤政生, 村岡道明)

日 時 平成3年5月10日(金) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 6階 65号室(所在地は前記参照)

議 題

(1) 連想プロセッサを用いたレイアウトデータ管理システムの高速化手法

久保田和人, 安部正秀, 石川拓也 (早大), 佐藤政生 (拓殖大), 大附辰夫 (早大)

〔概要〕 連想プロセッサを用いたレイアウトデータ管理システムを高速化する手法を提案し, その効果を確認する.

(2) 配置問題における分枝限定法の実験的評価

栗島 亨, 金子一哉 (早大), 佐藤政生 (拓殖大), 大附辰夫 (早大)

〔概要〕 古典的な最適化法である分枝限定法をモジュール配置問題に適用し, 実験的見地から評価を行う.

(3) 矩形双対グラフに基づく配置手法

田宮 豊 (富士通研)

〔概要〕 任意矩形マクロセルの重なりが無い配置について, 矩形双対グラフに基づく配置改善を行う.

(4) 組合せ回路における n 本の信号線の短絡故障の診断法

山崎浩二, 菊池秀和, 山田輝彦 (明大)

〔概要〕 ワイヤード AND として機能する n 本の信号線の短絡故障を, 推論とプローブにより診断する方法について述べる.

(5) クロストーク故障に対する検査入力生成手法について

板崎徳禎, 徐 小 楽, 樹下行三 (阪大)

〔概要〕 集積回路の製造時に生じ得る信号線間のクロストーク増大による論理故障に対する検査入力生成手法を提案する.

(6) 全可観測な環境でのスキャンパスを有する順序回路の故障検査について

温 曉 青, 樹下行三 (阪大)

〔概要〕 全可観測な環境で, 短いテスト系列でスキャンパスを有する順序回路の故障検査を行う手法を提案する.

◆ 第66回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 加藤肇彦, 幹事: 金子博昭, 永治義弘, 山田 剛)

日 時 平成3年5月10日(金) 13:30~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 1号室(所在地は前記参照)

議 題 特集: マイクロコンピュータによるファジィ処理

(1) 研究開発向けファジィ拡張 PERT (FAS)

廣田 薫, 金 鐘 基 (法政大)

〔概要〕 研究者研究活動の動的流れを管理するファジィ拡張 PERT (FAS) の概要, ネットワーク構造, 計算式を述べる.

(2) ニューロネットワークの重みとファジィルールの選択

山岡正人, 向殿政男 (明大)

〔概要〕 ニューロネットワークの学習を通じて得た重み（ウェイト）により、ファジィルールの選択を行う手法について述べる。

〔3〕 ニューロ・ファジィ融合システム 川村 旭, 渡部信雄, 大和田有理, 益岡竜介, 浅川和雄（富士通）

〔概要〕 ファジィの解り易さでニューロの学習能力を利用することができるニューロファジィ融合システムを提案する。

〔4〕 電化製品へのファジィ応用とそのツール 安倍秀二（松下電器）

〔概要〕 洗濯機を中心に他の電化製品へのファジィ応用とその開発ツールについて述べる。

〔5〕 ファジィ推論におけるメンバシップ関数の高速学習方式について 前田 章（日立）

〔概要〕 教師データを用いてメンバシップ関数を高速に学習させるアルゴリズムについて述べる。

◆ 第 83 回 自然言語処理研究会

（発表件数：20 件）

（主査：野村浩郷，幹事：田中裕一，徳永健伸，内藤昭三）

日 時 平成 3 年 5 月 16 日（木）10：30～16：45

5 月 17 日（金）10：00～16：15

会 場 長崎大学 工学部 2 号館 3 階 23 番講義室

〔長崎市文教町 1-14, JR：長崎下車，路面電車（赤迫行き），または長崎バス：長崎大学前下車（約 20 分），徒歩約 3 分，または長崎空港からバス（長崎市内行き）で昭和町下車（約 35 分），徒歩約 15 分。Tel. 0958 (47) 1111 内 2685, 2662〕

議 題

5 月 16 日（木）

—10：30～12：30—

〔1〕 自然言語処理の動向と課題

野村浩郷（九工大），田中裕一（ICOT），徳永健伸（東工大），内藤昭三（NTT）

〔概要〕 自然言語処理の研究動向を示し，今後の課題を概観する。

〔2〕 法律文の自然言語処理について

岩本秀明，野村浩郷（九工大）

〔概要〕 法律文の言語的特徴を活用して意味内容を解析する方法とそれを内部表現する方式について述べる。

〔3〕 文書の整理に関する一考察

福永博信（NTT）

〔概要〕 文書の整理という観点から，文書を利用した人間の知的活動の支援を考える。

〔4〕 文字列と素性付き単語列との実時間運動方式

野村直之（日電）

〔概要〕 言語的構造を保持したワープロの実現に必要な要素技術として，無駄な計算量を抑えることを狙った，文字列と素性付き単語列との実時間運動方式を紹介する。

—13：30～16：45—

〔5〕 表層的処理による話題抽出

竹下 敦（NTT）

〔概要〕 話題指向型情報提供システムのための，表層的な言語表現を手掛りとして話題を抽出する手法について述べる。

〔6〕 心的状態の多重世界表現を用いた対話処理

杉本 徹（東工大）

〔概要〕 多重世界構造に基づいた対話参加者の問題解決のモデルを提案し，その対話処理への応用について述べる。

〔7〕 論理文法に基づく文解析文生成システム

林 達也（富士通），坂巻利哉，神矢浩治（SSL）

〔概要〕 構文処理，意味処理を融合した論理文法に基づく文解析システム，ならびに文意構造からの文生成システムについて述べる。

〔8〕 文章生成における推敲の役割

乾健太郎，徳永健伸，田中穂積（東工大）

〔概要〕 「生成→評価→修正」のサイクルによって文章生成をおこなう枠組について述べる。

〔9〕 視点の理論に基づく文生成の試み

中村順一（九工大），田中優子（シャープ），伝 康 晴（京大），吉田 将（九工大）

〔概要〕 久野の視点の理論を拡張して，より自然な文を生成する文法を LFG により作成した。これについて報告する。

〔10〕 心的時間の分割とテンス・アスペクト表現

池田光生（ICOT），東条 敏（MRI）

〔概要〕 時間的視点の集合である心的時間を分割することで，テンス・アスペクトの表現を決める方法について述

べる。

5月17日(金)

—10:00~12:00—

(11) 非文の解析 —チャートに基づく新たな手法—

加藤恒昭 (NTT)

〔概要〕 置換, 挿入, 脱落誤りを含む文の解析に関して, Mellish のチャートに基づく手法を改善した手法を提案する。

(12) YAGLR: Yet another generalized LR parsing

田中穂積, K. G. Suresh (東工大)

〔概要〕 一般化 LR 法にアーリーの項計算を付加する新しい一般化 LR 法のアルゴリズムを提案する。

(13) Constraint Projection —制約射影による構文解析—

中野幹生 (NTT)

〔概要〕 選言的に記述された素性構造を用いて効率的に構文解析を行うための計算方式, 制約射影を提案する。

(14) 対話データベースを利用した音声認識のための構文規則

保坂順子, 竹沢寿幸, 江原暉将 (ATR)

〔概要〕 対話データベースを用いて構築中の構文規則について述べ, その音声認識率向上の手法としての有効性を示す。

—13:00~16:15—

(15) 語彙概念と知識について

牧野武則 (東邦大)

〔概要〕 自然言語理解のための知識を, 語彙が代表している概念, その上で成り立つ命題に分け, その成り立ちを議論する。

(16) 論理型言語処理と関係データベースの統合環境

佐野 洋 (ICOT), 佐々木博司, 小野寺浩 (富士通FIP), 小野雅己 (東芝情報システム)

〔概要〕 辞書の大規模化や語彙の複雑な内容記述に対応するため, 関係データベース機能を持つ統合システムを構築した。

(17) 国語辞典 (MRD) 情報を用いたシソーラスの作成について

鶴丸弘昭, 竹下克典, 伊丹克企, 柳川俊英 (長崎大), 吉田 将 (九工大)

〔概要〕 国語辞典 MRD から抽出された階層関係情報を利用して, シソーラスを作成する方法およびその問題点などについて考察する。

(18) 言語外知識を利用した文章の理解

宇津呂武仁, 長尾 真 (京大)

〔概要〕 文章理解において, 文脈の内容および言語外の常識的知識に矛盾のない解釈をおこなう枠組について述べる。

(19) SD 式モデルを利用した英会話文データベースの検索と英会話文の生成

野崎剛一 (長崎大), 脇山正博, 河口英二 (九工大)

〔概要〕 自然言語概念の意味記述モデルの SD 式を利用した英会話文データベースの検索と英会話文の生成について述べる。

(20) 自然言語概念学習に関する考察

白石正人 (福岡教育大), 横田将生 (福岡工大)

〔概要〕 人間の自然言語学習過程の分析に基づき, 言語的および非言語的 (図形など) 媒体による相補的学習システムを提案する。

◆ 第50回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 20 件)

(主査: 河岡 司, 幹事: 滝沢 誠, 寺中勝美, 水野忠則)

日 時 平成3年5月16日(木) 13:00~17:00

5月17日(金) 9:00~17:00

会 場 山梨大学 工学部 電子情報工学

〔甲府市武田 4-3-11, JR (中央線): 甲府 (北口) 下車, 徒歩 15 分. Tel. 0552 (51) 1111 内 5277 (山崎)〕

議 題

5月16日(木)

(1) グループ指向型鍵管理に適した暗号鍵配送法

高木和幸, 武藤康史, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 さきにわれわれの提案したグループ指向型鍵管理法 GCK において, 複数のユーザが多くの鍵生成情報を共有する。このことを利用して効率良く鍵を配送する方法を提案する。

(2) パソコン間暗号通信方式の一検討

小柳津育郎, 松本博幸, 石井晋司 (NTT)

〔概要〕 ISDN を利用しパソコン間でマルチメディアデータをリアルタイムで暗号化し通信を行う一方法を提案する。

(3) OSI 応用層プロトコル用 ASN.1 圧縮符号化規則の圧縮特性に関する一考察

堀内浩規, 小花貞男, 鈴木健二 (KDD 研)

〔概要〕 OSI 応用層のデータ要素の圧縮を行う新符号化規則として ISO 等で検討中の圧縮符号化規則の圧縮特性を考察する。

(4) OSI トランザクション処理における回復制御の実装

谷林陽一, 楠 和浩, 中川路哲夫, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 OSI-TP における回復制御を実現するための TP チャネルおよびログ機能の実装について述べる。

(5) 階層型トランザクションの並行実行によるデッドロックの解除方法

大内琢磨, 安沢伸二, 滝沢 誠 (東京電機大)

〔概要〕 入れ子型トランザクションを並行実行することによって生じるデッドロックを補償演算によって解除する問題について論じる。

(6) マルチデータベースシステムにおけるグローバルデッドロック回避による一貫性制御方式

吉田 誠 (沖テクノシステムズラボラトリ)

〔概要〕 DBMS の自立性を保ち、かつグローバルデッドロックを回避し一貫性を維持できる方式について記述する。

(7) 分散ネットワーク環境における LOTOS 仕様の実装法

程 子 学, 高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大)

〔概要〕 分散ネットワーク環境上で、LOTOS のマルチランデブを実装するメカニズムについて提案する。

5月17日(金)

—9:00~12:00—

(8) マルチパーティテスタの開発

岡村耕二, 佐藤文明, 勝山光太郎, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 複数のアソシエーションを制御する OSI 上位層の試験に用いるマルチパーティテスタを開発し、評価した。

(9) OSI 通信ソフトウェアにおける試験データの自動生成

辻 宏郷, 佐藤文明, 勝山光太郎, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 ASN.1 を用いた PDU 定義から試験データを自動生成するために、仕様記述の拡張とツール開発を行った。

(10) 交換 SDL 仕様の代数的検証方式

長谷川晴朗, 菊地奈穂美, 上田佳寛 (沖電気)

〔概要〕 交換 SDL 仕様をペトリネットに変換し、その代数的な解析手法を用いて有界性や活性の検証を行う。

(11) 手書き入力信号の ISDN 通信方式について

小柳津育郎, 田中清人, 山口利和, 宮保克明, 高橋 護 (NTT)

〔概要〕 オンライン手書き入力信号を ISDN のレイヤ2プロトコルを用いて通信する方法について述べる。

(12) ATM リングのアーキテクチャと高速マルチメディアネットワークへの適用

森田直孝, 伊東 匡, 笠原英樹, 今井和雄 (NTT)

〔概要〕 マルチメディア向き ATM リングプロトコルとシステム概要および MAN への適用や広域網への接続方式を論じる。

(13) 実験にもとづいた有線/無線の二層構造をもつ LAN のシミュレーション評価

重野 寛, 荒井 要, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 さきにわれわれの提案した無線/有線の二層構造をもつ LAN で使用する 1.2GHz 帯無線回線の電波伝搬とデータ通信の実験を行い、これらの結果を取り入れシミュレーション評価を行った。

—13:00~17:00—

(14) 情報の効果的活用に基づいたグループウェア

松浦宣彦, 平岩真一, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 グループでの協調作業における知的な情報伝達と、個人作業環境内の情報管理に着目したシステムを構築した。

(15) ネットワーク型演習支援システムにおける教材の利用について

福島 学, 浮貝雅裕 (千葉工大), 木下哲男 (沖電気), 菅原研次 (千葉工大)

〔概要〕 分散環境において、ハイパーメディアからなる教材を用いた演習授業における教材の利用について述べる。

(16) Winograd の2者会話ダイアグラムの多者への一般化について 小村誠一, 柴崎雅史 (NTT)

〔概要〕 Winograd が提唱した2者間の会話ダイアグラムを多者へ一般化する。提案する多者ダイアグラムは、電子メール等による非同期型の協調作業支援に適用可能である。

(17) 電子メールネットワークの運用の問題点と展望 松方 純 (国文学研究資料館)

〔概要〕 現在の電子メールネットワークの運用における技術的な問題点について述べ、その解決法について論じる。

(18) 分散協調型問題解決における知識表現モデル

柴田知博, 長木正宏, 村田 努, 井内 稔, 山崎清明 (山梨大)

〔概要〕 知識の表現モデルを異にする複数のエージェントにより構成される分散協調型問題解決システムの問題解決方式について報告する。

(19) 分散協調型問題解決における分散協調プロトコル 中森 勝, 平田 謙, 井内 稔, 山崎清明 (山梨大)

〔概要〕 複数エージェントによる分散協調のための「分散協調プロトコル」について、その役割と必要な機能を概説する。

(20) 分散協調型問題解決における問題解決エージェント

長木正宏, 村田 努, 柴田知博, 井内 稔, 山崎清明 (山梨大)

〔概要〕 分散協調型問題解決システムにおける知識表現モデルの異なる複数エージェントの試作について報告する。

◆ 第72回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 谷内田正彦, 幹事: 尺長 健, 富田文明)

日 時 平成3年5月17日(金) 13:00~16:45

会 場 北海道大学 工学部

(札幌市北区北13条西8丁目, 札幌駅より地下鉄: 北12条下車, 徒歩10分. Tel. 001 (716) 2111 内 6502 (青木))

議 題

(1) 頭部 CT 画像の三次元構成と光造形へのデータ加工 青木由直, 大塚晃央, 佐藤智之 (北大)

〔概要〕 三次元に再構成した CT 画像データに基づき紫外線硬化樹脂により光造形を行うためのデータ加工法の検討。

(2) 多重解像度解析によるアスペクトグラフの生成 守田 了, 川嶋稔夫, 青木由直 (北大)

〔概要〕 曲面形状に対して、多重解像度情報を用いてアスペクトグラフを生成する方法について考察する。

(3) 3次元 CG モデルを用いた顔画像のロバストな認識系実現への試み

赤松 茂 (NTT), 深町映夫 (NTTソフトウェア), 佐々木努, 末永康仁 (NTT)

〔概要〕 3次元 CG モデルから多様な条件で生成した顔画像の学習により、変動耐性の強い認識系の実現方法を提案する。

(4) 等輝度曲線のステレオ視による曲面の復元 石山 豊 (スタンレー電気), 富田文明 (電総研)

〔概要〕 曲面上のシェイディングから検出される等輝度曲線のステレオ視によって曲面を復元する方法について述べる。

(5) DTT 法を用いた車両認識 谷口博康 (三菱電機)

〔概要〕 空間情報を一方向へ圧縮投影し、時空間情報を方向-時間平面に変換する DTT 法とその車両認識への応用を報告。

(6) 3次元回転場と2次元速度場シミュレーションによる検討ー 北川英裕美, 林 成 起, 田村進一 (阪大)

〔概要〕 3次元回転場と2次元速度場を同時に求める手法につき、シミュレーションにより復元精度を検討した。

◆ 第16回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 有山正孝, 幹事: 雨宮幸雄, 大槻説乎, 竹谷 誠)

日 時 平成3年5月17日(金) 14:00~17:00

会 場 機械振興会館 6階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題

- (1) 言語Cの CAE システムの設計と開発 森田雅夫, 玉木裕二, 並木美太郎, 高橋延匡 (農工大)
〔概要〕 システムプログラマ育成のためのコースウェアの開発と CAE (Computer Aided Education) システムのプログラム実行環境について述べる。
- (2) 高等学校数学教育におけるコンピュータの役割 一松 信 (東京電機大)
〔概要〕 改訂指導要領に基づく高等学校数学教育に計算機が活用できる場面と機能を考察しシステムへの要望を提案する。
- (3) 高校理科教育と情報教育 有山正孝 (電通大)
〔概要〕 平成元年3月に告示された高等学校学習指導要領に盛り込まれた高校理科教育の中での情報教育の取り扱いを紹介し問題を論じる。

◆ 第34回 情報システム研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 槻木公一, 西原良一, 初瀬川茂)

日 時 平成3年5月21日(火) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議 題 特集: 公共情報システム

- (1) 職業能力開発データベースについて 吉田 敦 (中央職業能力開発協会)
〔概要〕 教育訓練に関するデータベース (中央職業能力開発協会・91年2月稼働開始) の概要について紹介する。
- (2) 学術情報センターにおける全文データベース検索サービス 原正一郎, 宮澤 彰, 根岸正光 (学情センター)
〔概要〕 学術情報センターの提供するネットワークとデータベース開発について, 全文 DB を例として発表する。
- (3) 人工知能技術を応用したデータベース利用技術に関する調査 鍋田茂子, 川崎浄正 (CSK)
〔概要〕 経済統計データベースの検索に必要な知識を分析し, 一般的なユーザの為の検索支援システムを試作した。
- (4) 電子出願情報処理システム 園 充 (特許庁)
〔概要〕 特許出願のコンピュータ処理をするシステムの概要等について説明する。
- (5) 瀬戸市総合行政情報システム 加藤文弥 (瀬戸市役所)
〔概要〕 職員総参加で構築に取り組む瀬戸市総合行政情報システムの基本的な考え方を述べる。
- (6) 都市ガス業界の意思決定支援システム 金子靖正 (ケージー情報システム)
〔概要〕 京葉ガスの「経営情報システム」を事例に, 都市ガス事業と意思決定支援システムのあり方を探る。

◆ 第76回 人工知能研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 石塚 満, 幹事: 原口 誠, 松原 仁, 吉田裕之)

日 時 平成3年5月22日(水) 10:30~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議 題

—10:30~12:00—

- (1) Incremental Goal Seeking モデルに基づくエキスパートシステムの提案 江藤博明, 丸山圭一 (日本 IBM)
〔概要〕 エキスパートシステムとして解空間の正当性を保証するアーキテクチャを提案する。
- (2) 構造的表現の適応学習とその応用 伊庭斉志 (電総研)
〔概要〕 構造的表現の獲得を, GA (遺伝アルゴリズム) を用いた適応学習によって行う方法とその応用について。
- 13:00~17:00—
- (3) 節形式に分解可能な認識論理を利用した効率的な信念推論システム 山本幹雄, 中川聖一 (豊橋技科大)
〔概要〕 節形式に分解可能な様相論理を考察し, それを一部に利用した信念推論システムについて報告する。
- (4) データ依存関係を用いた組み合わせ最適化手法 原 裕貴, 湯上伸弘, 吉田裕之 (富士通研)
〔概要〕 データ依存関係を用いて仮説の変更を繰り返す効率的な組み合わせ最適化手法を提案する。
- (5) 通信ネットワークのコスト最適設計の高速化 青木武司, 泉 寛幸 (富士通研)

〔概要〕 双対性を用いた可解性の判定, 半順序を用いた探索の枝刈りによるある種の組み合わせ最適化問題の高速解法.

(6) 発想的仮説生成のための述語論理知識ベースのコンパイル法 鶴田三郎 (東京商船大), 石塚 満 (東大)

〔概要〕 高速で発想的仮説を生成することを目的とした述語論理知識ベースのコンパイル法を開発した.

(7) 記憶に基づく学習への帰納学習の埋め込みについて 畝見達夫 (長岡技科大)

〔概要〕 無限長離散時系列を対象領域とする記憶に基づく学習機構に, 帰納学習を埋め込む方法を提案する.

◆ 第 50 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 中嶋正之, 幹事: 宇野 栄, 西原清一, 間瀬健二)

日 時 平成 3 年 5 月 24 日 (金) 9:30~17:15

会 場 東京大学 教養学部 15 号館 107 号会議室

〔東京都目黒区駒場 4-6-1, 京王 (井の頭線): 駒場東大前下車, 徒歩 3 分. Tel. 03 (3467) 1171〕

議 題

—9:00~12:15—

(1) 非多様体モデルにおける集合演算アルゴリズム 増田 宏 (日本IBM)

〔概要〕 ワイヤフレーム, サーフェス, ソリッドが混在した非多様体形状モデル間の集合演算操作を実現したので, それについて報告する.

(2) 不規則な有理曲線メッシュの G^1 連続曲面補間

高村慎二, 今野晃市, 原田毅士 (リコー), 千代倉弘明 (慶大)

〔概要〕 有理境界 Gregory パッチを用いて, 有理曲線を含む任意の曲線メッシュを G^1 連続に補間する方法について述べる.

(3) 距離尺度に基づく形状表現法

野中士郎, 徳増真司 (日立)

〔概要〕 空間上の任意の点から対象とする形状の境界に到る最短距離を求める関数として形状を統一的に表現する方法を提案する.

(4) 路線図状のネットワーク表現図の自動生成

酒井恵光, 川合 慧 (東大)

〔概要〕 路線図などを記述するために必要な幾何的制約についての考察と, 図の自動生成の試みについて報告する.

(5) On sorting points along an algebraic curve

應江黒今, 杉江 昇 (名大)

〔概要〕 与えられた有限個の点のある代数曲線に沿って順番付けるという問題について有効な計算アルゴリズムを与える.

—13:30~17:15—

(6) CAD 図面に基づいたソリッドモデル生成処理 清水和磨, 佐藤勇一, 近藤 智, 田畑憲昭 (キャノン)

〔概要〕 機械系二次元 CAD 図面からソリッドモデルを効率的に生成するシステムを開発したので報告する.

(7) 測色概念に基づく正確なレンダリング技術

大島哲也, 高木 淳, 高岡 仁, 湯浅真治, 緒形義則 (トヨタ自動車)

〔概要〕 実環境におけるさまざまな物理現象を厳密に分析することによりデザイナの要求に答えられる写真並の現実感を生成するレンダリング技術について述べる.

(8) 布地の光反射モデルに関する実験的検討

村上一彦, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎, 稲垣勝彦* (名大) (*名古屋市立女子短大)

〔概要〕 実際の布地からの反射光分布を測定し, これに基づく異方性反射モデルによる布地の質感表現法を報告する.

(9) 折紙の会話型シミュレーション・システム

小森章弘, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大)

〔概要〕 グラフィクスステーション上で会話的に折紙のプロセスをシミュレートするシステムについて述べる.

(10) キーフレームアニメーションの二点境界値問題として定式化

寺沢幹雄, 木村文彦 (東大)

〔概要〕 物理制約を考慮した 3 次元 CG アニメーションの二点境界値問題としての定式化と, 勾配法による解法について述べる.

(11) 教育用立体シミュレーターの開発

脇田早紀子, 脇田能宏, 鈴木賢次郎 (東大)

〔概要〕 小・中学校での立体図形教育における使用を目的とした立体図形シミュレーターを開発、評価実験を行ったので報告する。

◆ 第 9 回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数：6 件)

(主査：杉田繁治，幹事：及川昭文，小沢一雅，洪 政国)

日 時 平成 3 年 5 月 24 日 (金) 10:00~17:00

会 場 国際日本文化研究センター

〔京都市西京区御陵大枝山町 3-2, 阪急：桂下車，西口より市バス (西 5)，または東口より京都交通：桂坂小学校前 (終点) 下車 (25 分)，徒歩 7 分。Tel. 075 (335) 2100〕

議 題

—10:00~12:00—

(1) 知的生産の技術カードと KJ 法の計算機上での融合 宗森 純，長澤庸二 (鹿児島大)

〔概要〕 分散協調型 KJ 法支援システムと知的生産の技術カード支援システムとを融合した。

(2) Three-Dimensional Modelling and Primary Archaeological Data Paul Reilly (IBM UK)

〔概要〕 ソリッド・モデリング・システムを考古学研究に応用する現況について報告し、今後の展望について述べる。

—14:00~17:00—

(3) 地図作業ソフトの開発と作業実習

出田和久 (大阪教育大)，大井隆志 (同志社女子中)，正木久仁 (大阪教育大)

〔概要〕 地図作業による結果を表示するために当研究室で開発したソフトと、それを用いた学生の実習例を報告する。

(4) インド暦のコンピュータプログラムについて 矢野道雄 (京都産大)，伏見 誠 (京大)

〔概要〕 インド古典天文学書の天体位置計算法をプログラム化することにより、古暦との関係を明らかにする。

(5) 外像 (外国人の見た日本のイメージ) のデータベース化 白幡洋三郎 園田英弘，小野芳彦 (日文研)

〔概要〕 日本のイメージを総合的に表すような画像のデータベースを構築するための画像収集原則を論ずる。

(6) 美術画像の情報収集の試み 早川聞多，別役恭子 (日文研)

〔概要〕 美術品の高精度の画像を手軽に、しかも多目的に使用可能な形で収集する方法を提案する。

*当日昼食希望者は、5 月 22 日 (水) 迄に下記までお申込みください。

洪 政国 (日本 IBM) Tel. 03 (3288) 8280 FAX 03 (3265) 4251

◆ 第 1 回 情報メディア研究会 (新設)

(発表件数：4 件)

(主査：相磯秀夫，幹事：石塚英男，上林憲行，田中 譲，中川 透)

日 時 平成 3 年 5 月 24 日 (金) 10:00~17:00

会 場 慶應義塾大学 藤沢キャンパス A 館 (本館) 4 階 大会議室

〔藤沢市遠藤 5322, 小田急電鉄 (江ノ島線)：湘南台下車，湘南台西口系統バス：慶大前下車 (約 15 分)，または JR (東海道線)：辻堂下車，辻堂駅北口系統バス：慶大前下車 (約 25 分)。Tel. 0466 (47) 5111 (代)〕

議 題

—10:00~12:15—

(1) メディアと電腦生活 坂村 健 (東大)

〔概要〕 メディア化したコンピュータを含む多くのコンピュータが導入された生活について TRON を通して展望する。

(2) 情報化時代のアート 坂根巖夫 (慶大)

〔概要〕 科学技術がもたらした多様なメディアを背景にいま芸術界で何が起きているか。その可能性と未来を展望する。

—13:30~15:30—

(3) メディアと編集工学 松岡正剛 (編集工学研)

〔概要〕 生物および人間にひそむ自己編集システム，メディアの歴史にひそむ編集の方法，これらを通して新しい“自己編集機械”の可能性を探る。はたして、脳はハイパーメディアなのか。

(4) 専門用語辞書のハイパーテキストシステム

黒橋禎夫, 長尾 真 (京大)

〔概要〕 4,500 項目の情報科学辞典を種々の観点から活用できるハイパーテキストシステム化する方法論を開発した。

—15:45~17:00—

見学: 慶應義塾大学 藤沢キャンパス

*研究会終了後, 懇親会 (17:00~18:00) を予定しております。

◆ 第 83 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 増永良文, 幹事: 北川博之, 田中克己, 鶴岡邦敏)

日 時 平成 3 年 5 月 24 日 (金) 10:30~16:30

会 場 図書館情報大学 大会議室

〔つくば市春日 1-2, JR (常磐線): 荒川沖 (東口) 下車, 関東鉄道バス (筑波大中央行): 図書館情報大学前下車 (約 25 分), または東京駅八重洲南口より高速バス (つくばセンター行) にて終点下車 (約 1 時間), Tel. 0298 (52) 0511〕

議 題

—10:30~12:00—

(1) 文字列照合を用いた全文検索における仮名文字検索の高速化手法

菊池忠一 (テレマティーク国際研)

〔概要〕 漢字に比して文字種の少ない仮名文字の連続 2 文字を文字ユニットとする全文検索の高速化手法を述べる。

(2) 建築 CAD 用データベースにおけるレイアウト図について

岡本基良, 宇田川佳久 (三菱電機)

〔概要〕 本稿では建築レイアウト図の構造表現と, レイアウト図内のオブジェクト相互間の関係の考察結果を報告する。

—13:30~16:30—

(3) Extension on the resource allocation algorithm in parallel and functional query processing

清木 康, 大西 元 (筑波大)

〔概要〕 多様なデータベース演算群を関数型計算により並列に処理するデータベース処理システム SMASH の計算機資源割り当て方式の拡張を示す。

(4) 垂直分散データベースにおける問合せ最適化処理の実現方法

高野 智 (日電)

〔概要〕 リモート検索の際にローカルな重複データを利用して転送コストを下げる方法について述べる。

(5) 永続的プログラミング言語におけるオブジェクト識別子の主記憶内表現について

鈴木慎司, 喜連川優, 高木幹雄 (東大)

〔概要〕 ポインタによる識別子の表現と OID による表現の, アクセス速度・メモリ管理能力における得失を論じる。

(6) OODB によるマルチメディア DB 実現法の検討

桑澤嘉宏, 鈴木幸市, 本橋征行 (NTT データ)

〔概要〕 さまざまな記憶媒体上の静止画情報等を扱うマルチメディア DB を OODB を用いて DB 利用者側で実現する方法を検討した。

◆ 第 21 回 情報学基礎研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 有川節夫, 幹事: 岩野和生, 根岸正光, 吉田郁三)

日 時 平成 3 年 5 月 28 日 (火) 10:00~16:30

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題 特集: 大規模データベースにおける発見

—10:00~12:00—

(1) 大規模データベースにおける発見 —研究の動向と展望—

西尾章治郎 (阪大)

〔概要〕 大規模データベースに内在するルールをいかに発見し, 知識ベース化するかに関して, 研究動向と展望を述べる。

(2) 全球気象データからの地球物理学的発見

塩谷雅人 (京大)

〔概要〕 大容量の全球気象データを研究目的に応じていかに圧縮し、その中からどうやって地球物理学的発見をするか。

(3) 大規模データベースの構成と利用に関する統計的特性 小野寺夏生 (JICST)

〔概要〕 大規模データベースのキーワードや利用の統計的分布が特異な形をしている例と、その解釈について述べる。

—13:00~16:30—

(4) 英文科学技術抄録文からの機能語の抽出 松尾文碩 (九大)

〔概要〕 科学技術論文についての大量英文抄録から原型で約 1,000 語の機能語を自動抽出した。この機能語の性質を述べる。

(5) 自然語意味情報を対象にした格構造データベース 柴崎真人, 小口琢夫 (日立)

〔概要〕 多ソート論理式に対応づけた自然語意味情報を取り扱う演繹データベースを開発した。その概要を説明する。

(6) オンライン索引支援システム 日夏健一 (JICST)

〔概要〕 分散処理による大量の文献データベース作成に道を拓くワークステーションによる索引支援システムを紹介する。

(7) 文献情報データベースからの知識獲得 石塚英弘, 宇陀則彦, 山本毅雄 (情報大)

〔概要〕 知識表現の枠組として“報告された知識”と“判断された知識”を考察し、実際にシステムとして実現した。

(8) 総括討論

*本研究会の担当幹事: 吉田郁三 (日立) Tel. 044 (966) 9111 (内 2151), 小室信三 (JICTS) Tel. 03 (3581) 6411 (内 431)

◆ 第21回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 西関隆夫, 幹事: 浅野孝夫, 岡本栄司, 安浦寛人)

日 時 平成 3 年 5 月 29 日 (水) 10:00~17:00

会 場 東京大学 山上会館 201 会議室

〔東京都文京区本郷 7-3-1, 地下鉄 (丸の内線): 本郷三丁目下車, 徒歩 10 分 (東京大学本部構内のほぼ中央). Tel. 03 (3818) 3008〕

議 題

—10:00~12:00—

(1) Analysis of Simple Randomized Sorting Algorithms on the Mesh Computer Using Only Row and Column Sorting 長谷川進, 今井 浩, 博多浩司 (東大)

〔概要〕 メッシュ計算機上で行・列ソートのみ用いてソーティングを行う簡単な確率的動作アルゴリズムの解析を行う。

(2) CAM を用いた機能メモリ型並列プロセッサ上での並列アルゴリズム

安浦寛人, 渡辺章弘, 左達隆吾, 田丸啓吉 (京大)

〔概要〕 機能メモリ型並列プロセッサ上でのパターンマッチやグラフの最短/最長経路などの並列アルゴリズムを示す。

(3) 到達可能性判定問題に対するメモリ型並列アルゴリズム 高木一義, 高木直史, 矢島脩三 (京大)

〔概要〕 有向グラフの可到達性行列を求めるための, メモリ型並列計算機構を用いたアルゴリズムを提案する。

—13:20~17:00—

(4) 最大共通部分木を求める並列アルゴリズム 阿久津達也 (機械技術研究所)

〔概要〕 2つの木が与えられたとき, その最大共通部分木 (の 1 つ) を求める RNC アルゴリズムを示す。

(5) 無向多重グラフのすべての 3-辺成分を求める線形時間アルゴリズム

田岡智志, 渡辺敏正, 翁長健治 (広島大)

〔概要〕 与えられた無向多重グラフのすべての 3-辺成分を求める線形時間アルゴリズムを提案する。

(6) 分枝限定法による系列グラフ分割問題の高速化と拡張 加地太一 (北海道情報大), 大内 東 (北大)

〔概要〕 分枝限定法による系列グラフ分割問題のアルゴリズムについて述べ, その高速化の工夫点と問題の拡張を

与える。

(7) 割当て問題に対する幾何的算法

中野 淳, 徳山 豪 (日本IBM)

〔概要〕 n 人の人員を k 箇所に割り当てる最小コスト問題に対して, 新しいアプローチで効率の良い算法を提出する。

(8) 低次の代数曲面のアレンジメントに関して

今井桂子 (津田塾大), 今井 浩 (東大)

〔概要〕 1つの変数に関して低次の交線をもつ代数曲面のアレンジメントでのゾーン定理などを与える。

*研究会終了後, 簡単な懇親会を予定しています。

◆ ソフトウェア工学研究会

第 79 回研究会を下記のとおり開催いたします。多数のご発表をお待ちしております。奮ってご応募ください。発表をご希望の方は, 研究会発表申込み書 (2月号末添付) に発表題目と発表者名, 50字以内の概要をご記入のうえ, 学会事務局研究会担当までお申込みください。

日 程 平成3年7月18日(木)・19日(金)

会 場 富山大 工学部

発表申込締切 平成3年4月30日(火)

◆ グラフィクスと CAD 研究会

集中研究集会「動物, 植物の CG 表現とその応用」論文募集

第 52 回研究会は, 研究者・技術者相互間における質の高い集中的な討議と情報交換を目的とした集中研究集会を開催します。

この集中研究集会は, 1泊2日の日程で, 原則として参加者全員が発表し, 議論する中からそのテーマについての結論あるいは見通しを得ようとするものです。一昨年は「自然対象物のモデリングと表現技術」, 昨年は「人物のモデリングと表示技術」と題して, 山岳, 樹木, 石, 布地, 人体, 顔, 頭髪, 皮膚などを対象とする最新の CG 技術について討議され, 多大の成果をあげることができました。今回は, 昨年に引続き自然対象物の第3回目として, 動物や植物の生命体全般を対象としたモデリングとレンダリング技術およびその応用をテーマとします。

動物や植物を対象とするグラフィクス技術は, コンピュータ・アニメーションをはじめ, フライトシミュレータや建設計画のプレゼンテーションのための景観シミュレーションなど, 多くの分野で研究されています。本研究会にも, 蝶や仮想生物の行動シミュレーションや樹木の生長モデルなどが報告されています。

今回の集中研究集会を動物や植物に関するグラフィクス技術についての最新の研究発表の場とするとともに, 参加者相互の情報交換と討論を各々の研究を進展させる一助にしたいと考えます。多数の方々の参加を希望します。奮ってご応募ください。

日 時 平成3年8月16日(金) 13:00~18:00

8月17日(土) 9:00~17:00

会 場 浜名湖保養所浜名荘 (宿泊費 12,000 円 (予定))

申込締切 平成3年5月13日(月)

申込方法 研究会発表申込用紙を利用し, 学会研究会係へ申し込む。

原稿締切 平成3年5月13日(土)

参加者数 25名程度に限定する。(原則として, 全員が発表を行う)

問合せ先 千葉則茂 (岩手大・工・情報) Tel. 0196 (23) 5171 内 2659

大野義夫 (慶大・理工・電気) Tel. 045 (563) 1141 内 3388

主査 中嶋正之 (東工大・工・像情報) Tel. 045 (922) 1111 内 2081

平成 3 年度研究会のお知らせ

平成 3 年度は、下記のとおり **21 研究会**（*：新設 1，統合 1（ソフトウェア基礎論とプログラミング言語の 2 研究会の統合））で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。（ただし、本学会員に限る。）
- 登録されていない会員は研究会当日、資料代 ￥ 1,000（学生 ￥ 500）をいただきます。（ただし、部数に制限があります。）

研 究 会 名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	○野村 浩郷	田中 裕一 徳永 健伸 内藤 昭三	言語処理, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話処理, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	○増永 良文	北川 博之 田中 克己 鶴岡 邦敏	基礎理論, データモデル, DB 設計, DB 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB プロセッサ, マルチメディア DB, オフィスシステム, エンジニアリング DB, 知識ベース, ユーザインタフェース, 知能 DB, オンラインシステム, 演繹 DB, オブジェクト指向 DB, DB 応用他
3	人工知能	○石塚 満	原口 誠 松原 仁 吉田 裕之	知識表現, 推論・探索, 学習, 認知モデル, ニューラルネット, 知識ベース, エキスパートシステム, ファジー理論, パターン・自然言語の理解, 知的インタフェース, 分散 AI, AI アーキテクチャ
4	記号処理	○竹内 郁雄	相場 亮 小谷 善行 多田 好克	リスト, 文字列, オブジェクト, プログラム自身などの記号処理 (含並列), アーキテクチャ, 計算モデル, 言語 (Lisp, Prolog, オブジェクト指向言語など), 処理系, ツール, 応用 (数式処理, AI, プログラミング環境など)
5	ソフトウェア工学	○原田 賢一	宇都宮 公訓 大槻 繁和 大蔭 和仁	プログラム設計方法, 形式的仕様・プログラム図式, プログラミング方法論, 検査・検証, ソフトウェアツール, 開発環境, 再利用・プログラム合成, 管理, メトリックス, 人的要因, 教育
6	マイクロコンピュータとワークステーション	○加藤 肇彦	金子 博昭 水治 義弘 山田 剛	マイクロコンピュータとワークステーションに関し, 1. ハードウェア (インタフェース, アーキテクチャ, マイクロプログラム, マルチプロセッサ), 2. オペレーティング・システム (汎用 OS, リアルタイム OS), 3. 開発支援環境 (言語と言語処理系, 仕様記述・評価, 検証技術), 4. 各種応用分野, 5. 他の技術分野との境界領域
7	計算機アーキテクチャ	○富田 眞治	後藤 厚宏 村上 彰 横田 実	計算機システムのアーキテクチャ全般 (構成・設計・制御・利用技術), 並列処理アーキテクチャ, VLSI アーキテクチャ, 各種専用計算機アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	○吉澤 康文	清水 謙多郎 園部 正幸 田胡 和哉	1. OS の基礎・構造論, 2. 新 OS 構築の実例, 3. 並列・分散処理 OS, 4. 計算機システムの性能評価・解析ならびに信頼性, 5. OS の人間工学的設計論, プログラミング開発環境, 6. 関連する計算機システムの諸問題
9	コンピュータビジョン	○谷内田正彦	尺長 健 富田 文明	視覚情報処理: 画像処理, 画像理解, 物体認識, 3次元復元, ステレオ視, モーション, ロボットビジョン, 視覚モデル, 画像データベース, 画像プロセッサなど
10	設計自動化	○小澤 時典	川戸 信明 佐藤 政生 村岡 道明	LSI, プリント基板, 論理装置の設計自動化に関連した分野: ハードウェア設計言語, 論理合成, シミュレーション, 設計検証, テスト容易化設計, テスト, 診断, レイアウト自動設計, 設計エキスパートシステム, CAD エンジン等

研 究 会 名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○河岡 司	滝沢 誠 寺中 勝美 水野 忠則	マルチメディアによる高度情報通信 ネットワークおよび分散処理 システム (LAN, 広域網, 分散コンピューティング, ネットワーク管理, グループウェア, 知的通信等)
12	ヒューマン インタフェース	○安西祐一郎	井関 治 小川 克彦 廣瀬 通孝	1. 計算機システムのヒューマンインタフェース, 2. 認知情報処理のモデル, 3. インタフェースシステム, 4. 協調作業のインタフェース, 5. インタフェースとコミュニケーション, 6. 日本文入力方式, 7. 文書処理方式とオフィスオートメーション
13	グラフィクスと CAD	○中嶋 正之	宇野 栄 西原 清一 間瀬 健二	グラフィクスソフトウェア, グラフィクスハードウェア, グラフィクス言語, 図形処理と表示アルゴリズム, 形状処理, アニメーション, ユーザインタフェース, CAD/CAD, AI の CAD への応用, グラフィクスワークステーション
14	数値解析	○浜田 穂積	関口 智嗣 土谷 隆 吉原 郁夫	・数値計算とその解析, ・スーパーコンピュータによる超大型計算, ・数学ソフトウェアの移植, ・数式処理との結合, ・計算機や言語への提案
15	情報システム	○伊吹 公夫	槻木 公一 西原 良一 初瀬川 茂	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析, 設計, 構築, 利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織, 社会
16	*統合 プログラミング 一言語・基礎・実践一	○安村 通晃	久世 和資 萩谷 昌己 松岡 聡	1. 計算のモデルとプログラミングの基本概念, 2. プログラミング言語とその設計, 3. プログラミング言語の実現, 4. プログラミング工程と支援環境, 5. プログラミングのための新しい概念, 方法, パラダイム
17	情報学基礎	○有川 節夫	岩野 和生 根岸 正光 吉田 郁三	1. 情報の表現, 認識, 分類, 評価の手法など, 2. 情報の標準化, 流通, 管理の方式など, 3. 大量のマルチメディア情報, 文字情報, 非文字情報の処理など
18	コンピュータと教育	○有山 正孝	雨宮 幸雄 大槻 説平 竹谷 誠	1. 学校および企業における情報分野の専門技術者・研究者の育成, ならびにリテラシーとしての一般的情報処理教育のカリキュラム, 具体的教育法, 実践例等, 2. 知的 CAI を含む教育における計算機応用.
19	アルゴリズム	○西関 隆夫	浅野 孝夫 岡本 栄司 安浦 寛人	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する離散アルゴリズム, 2. 計算幾何学と計算代数学, 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム, 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム, 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム, 6. データ構造, 7. 計算複雑さの理論
20	人文科学と コンピュータ	○杉田 繁治	及川 昭文 小沢 一雅 洪 政国	1. 人文科学, 博物館・美術館への情報処理, コンピュータの応用要素と実現技術, 2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術, 3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力, 4. コンピュータ, 情報処理の社会的側面
21	*新設 情報メディア	○相磯 秀夫	石塚 英男 上林 憲行 田中 護 中川 透	情報メディアの科学と工学: 1. メディアの電子化, ハイパー化, 映像化, 2. メディア機械 (仮想現実等), 3. メディアの創作, 編集, 表現, 伝達, 管理, 理解のメタファと環境

情報メディア研究会発足のお知らせ

目 的

現在の高度情報社会は、情報の生産能力が処理および管理・検索・抽出能力に比べて極端に高められた社会である。膨大な一次情報の氾濫の中で、もっと多くの情報を摂取しなくてはならないという脅迫観念が常にわれわれを責めつけている。情報化がこのままの方向で進むと、高度情報処理技術は豊かな生活をもたらすどころか、リチャード・ワーマンのいう情報不安症患者を急増させることになるであろう。この原因は、従来の情報処理技術の開発が情報そのものの生態の理解不足と人間や社会に向けたメディアへの関心が希薄であったためかと反省させられる。

情報処理を論じるに際して、各種の情報がどのように伝達され、どう分類整理され、いかに獲得され、膨大な情報の中からなぜ抽出され、あるいは捨てられるか、どのように抽出されるか、というような情報そのものの生態に関する観察をその体系化が十分に議論されていなかったように思われる。今後、情報処理が取り扱う情報の種類が急速に増加するにしたがい、各種の情報の生態を理解することが情報処理システムの設計に不可欠になるであろう。本研究会の名称である「情報メディア」とは情報の生態系を意味している。情報メディアの生態系の場合は、社会、コミュニティ、オフィス、家庭とさまざまである。それぞれの空間において種々のメディアが計算機上にのり、計算機は計算をする機械から、種々のメディアを統合したメタ・メディアへの脱皮を目指しつつある。しかし、情報の生態についてのメンタル・モデルが技術者の頭の中に未だ形成されていないことが開発の大きな障害になっている。

情報の生態を考慮した情報処理を目指す情報メディアは今まさに生まれようとしている若い学問分野である。しかし、その下地はすでに多くの研究者の努力により、設計、教育、出版、放送、映画、広告、TV ゲーム、都市開発などの種々の分野で計算機科学や認知科学の研究者とともに研究されてきている。しかしこれらの研究者たちが一緒に議論することができる場合は今までにはなく、そのことがこの分野の学問の発展を遅らせていたといえる。

このような理由から、自由な若々しい心を持った会員が既存の枠組みの壁を越えて交流し、色々な試みを通じて情報の生態をより深く理解することにより、情報メディアとその情報処理の学術・技術的究明を目指すことを目的として、本研究会を平成3年度から発足させることになった。多数の会員の参加と積極的な研究活動を期待するものである。

主要な研究分野

情報の生態系という新しい視点から人間と社会に顔を向けたメディアとシステム、具体的には、

- 1) 情報メディアとその生態系のモデルと理論、
- 2) 情報メディアの創作、表現、演出、編集、管理、検索、伝達、理解の科学、
- 3) 情報メディアのメタファ、環境、システムのアーキテクチャ、
- 4) メディア機械とその応用（仮想現実、疑似体験、エンタテインメント）、
- 5) 社会（出版、放送）、コミュニティ（博物館、美術館、図書館）、オフィス（文書）、家庭（AV 機器）、個人における情報メディア。

提 案 者（五十音順）

相磯秀夫（慶大）	赤木昭夫（慶大）	石井 裕（NTT）
石塚英男（電子ライブラリーコンソーシアム）	宇津宮孝一（大分大）	鎌田博樹（創研）
釜江尚彦（NTT）	上林憲行（富士ゼロックス）	菊池俊一（JICST）
後藤富雄（日電）	坂根巖夫（慶大）	坂村 健（東大）
高橋真一（紀伊國屋）	竹内彰一（三菱電機）	田中 譲（北大）
田村秀行（キャノン）	野々垣旦（パーソナル情報環境協会）	平山智史（ソニー）
藤沢浩道（日立）	松岡正剛（編集工学研究所）	村岡洋一（早大）
森 健一（東芝）	安田直義（日外アソシエーツ）	山本昌弘（日電）
矢野米雄（徳島大）	横井俊夫（EDR）	吉崎 武（ハイテックラボジャパン）

ソフトウェア基礎論研究会・プログラミング言語研究会 統合のお知らせ

●統合の目的

現在、情報処理学会には、計算機ソフトウェアの諸側面を中心的に扱う研究会として、記号処理、ソフトウェア工学、ソフトウェア基礎論、プログラミング言語等の研究会があります。しかしながら、これらのうち、特にソフトウェア基礎論研究会とプログラミング言語研究会の担当分野には少なからぬ重複がみられるに至っております。

そこで、両研究会の担当分野に関する研究会組織をより強固にし、そこに研究者を結集させることが重要であると考え、ソフトウェア基礎論研究会とプログラミング言語研究会を統合し、新しい研究会を平成3年度より発足させることにいたしました。

両研究会を統合することによって、研究発表会の開催頻度、発表件数、参加者を増加させることができ、参加者や発表者の利便を向上させることができると思われます。また、統合を機に、理論研究と実践研究との交流をさらに促進したいと考えております。

最近、複数研究会の共催による特集研究会がいくつか開催され、その規模が順調に拡大しているのを見ましても、研究会の統合は、ともすれば細分化しがちである研究会活動の活性化にとって積極的な意義を持つと考えられます。

●新研究会の名称

プログラミング一言語・基礎・実践一研究会

(Theory and Practice of Programming and Programming Languages, 略称: PRG)

●新研究会役員

主査: 安村通晃 (慶大)

幹事: 久世和資 (日本 IBM), 萩谷昌己 (京大), 松岡 聡 (東大)

●主要な研究分野

プログラミングという計算機科学の基本的分野を、理論的側面と実践的側面の両面から扱う。ここでいうプログラミングとは、プログラミング工程全般を含む広い範囲を対象とはするが、特に、大規模なプログラムの効率的作成といった量的側面よりも、むしろ基本的・質的側面（形式的方法を含む）を主に扱う。

より具体的には、下記の分野が含まれる（関連の深いキーワードをカッコ内に示す）。

1. 計算のモデルとプログラミングの基本概念
(論理, 関数, 並列・並行・分散, 制約, オブジェクト指向, 書替え, データ型, 制御, 構成的プログラミングなど)
2. プログラミング言語とその設計
(言語機能, 意味論など)
3. プログラミング言語の表現
(コンパイラ, 最適化技法, 性能評価など)
4. プログラミング工程と支援環境
(仕様記述, 検証, プログラム合成, プログラム解析, デバッグなど)
5. プログラミングのための新しい概念, 方法, パラダイム

◆ 研究発表会開催予定 (1991 年 4 月～1992 年 3 月)

(研究会名)	(開催日・会場他)
自然言語処理	5月16日(木)・17日(金) 長崎大 7月19日(金) KDD(上福岡) 9月20日(金) 東北大 11月15日(金) NTT(武蔵野) 1月17日(金) 中京大 3月20日(金) 徳島大
データベース・システム	5月24日(金) 情報大 7月17日(水)～19日(金) 志賀島国民休暇村(福岡) 9月27日(金) 機・B3-研2 11月8日(金) 高度通信システム研(仙台) 3月中旬 機
人工知能	5月22日(水) 機・B3-2 7月18日(木) 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月12日(木)・13日(金) 日電(東京) 11月26日(火) 機・B3-2 1月16日(木)・17日(金) ATR 3月 ICOT
記号処理	6月21日(金) 慶大(藤沢) 9月13日(金) 徳島大 11月29日(金) 電通大 1月16日(木)・17日(金) ATR 3月13日(金) NTT(武蔵野)
ソフトウェア工学	6月25日(火) 機・B3-2 7月18日(木)・19日(金) 富山大 10月4日(金) 東京 12月3日(火) 機・B3-2 2月6日(木)・7日(金) 地方 3月3日(火) 機・B3-2
マイクロコンピュータとワークステーション	5月10日(金) 機・B3-1 6月14日(金) 機・B3-1 7月5日(金) 機・B3-1 10月11日(金) 東北大 12月12日(木) 機・B3-2 2月7日(金) 機・B3-2
計算機アーキテクチャ	4月22日(月) 日電(東京) ※光コンピュータ 7月19日(金) 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月または10月 東大・生研 ※データベースマシン 11月下旬 四国 1月 上信越 3月中旬 東京
オペレーティング・システム	7月18日(木) 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月6日(金) 機・6F65 12月6日(金) 機・B3-2 3月19日(木) 機・6F65
コンピュータビジョン	5月17日(金) 北大 7月12日(金) 琉球大 9月20日(金) 東工大 ※モデリングと表現 11月22日(金) 富士通研 ※モーション 1月23日(木)・24日(金) 阪大 ※環境の認識と理解 3月27日(金) 機 ※知識と学習
設計自動化	5月10日(金) 機・6F65 7月12日(金) 北大 ※レイアウト 10月8日(火)・9日(水) 機・6F65 ※Design & Test 12月12日(木)・13日(金) 京都 ※論理合成・シミュレーション 2月21日(金) 機・6F67 ※CAD フレームワーク
マルチメディア通信と分散処理	5月16日(木)・17日(金) 山梨大 7月5日(金) 機・B3-2 9月24日(火)～27日(金) NTT(札幌) 1月23日(木) 機・B3-2 3月5日(木) 機・B3-2

(平成3年3月15日現在)

ヒューマンインタフェース	5月9日(木) 機・B3-2 7月4日(木) 機・B3-2 9月12日(木) 機・B3-2 11月7日(木) 機・B3-2 1月16日(木) 機・B3-2 3月2日(月)・3日(火) 北大
グラフィクスとCAD	5月24日(金) 東大 ※幾何モデリング 7月26日(金) 機・B3-2 8月15日(木)・16日(金) 浜名荘(浜松) (集中研究) 10月中旬 名大 12月20日(金) 機・B3 研-2 2月21日(金) 日電(大阪)
数値解析	7月17日(水) 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 10月19日(土) 名大 12月6日(金) 機・B3-1 3月 統数研
情報システム	5月21日(火) 機・B3-2 ※公共情報システム 7月16日(火) 機・6F67 10月15日(火) 機・B3-2 1月21日(火) 機・B3-2 3月17日(火) 東京 (第2回若手の会)
プログラミング —言語・基礎・実践—	4月26日(金) 日本IBM 6月21日(金) 慶大(藤沢) 7月17日(水) 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月27日(金) 機・研-2 11月 筑波 ※並行・並列・分散 1月 機
情報学基礎	5月28日(火) 機・B3-1 ※大量データベースにおける発見 7月10日(水) 機・B3-2 ※分類と学習 9月10日(火) 機・B3-2 ※ゲノム解析のためのアルゴリズム 11月12日(火) 情報大 ※情報化社会における電子化図書館の進展
コンピュータと教育	4月26日(金)・27日(土) 機・6F65 ※知的CAI 5月17日(金) 機・6F65 7月19日(金) 宇都宮大 ※大学等における一般的情報処理教育 9月20日(金) 機・B3-9 11月15日(金) 九工大 ※知的CAI 1月17日(金) 機・B3-2
アルゴリズム	5月29日(水) 東大 7月22日(月) 名工大 9月20日(金) 宮崎大 11月22日(金) 神戸大 1月24日(金) 日電(川崎) 3月 慶大(藤沢)
人文科学とコンピュータ	5月24日(金) 国際日本文化研究センター(京都) 9月6日(金) 金沢工大 10月14日(月) 東京 11月29日(金) 川崎市市民ミュージアム 3月6日(金) 出雲
情報メディア	5月24日(金) 慶大(藤沢) 7月12日(金) 北大 9月13日(金) 東京 11月8日(金) 東京 1月10日(金) 東京

注) 機-機械振興会館

※-特集・テーマ

* 各研究会に発表申込希望者は開催日の3カ月前までに研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

年 月 日

平成 3 年度研究会登録申込用紙

新 規 専 用

会員 No. _____ 会員氏名 _____

登録希望の研究会の申込欄に○印をしてください。（＊登録は本学会員に限ります）

申 込 み (コード)	研 究 会 名	登録費	申 込 み (コード)	研 究 会 名	登録費
☐ NL-AA	自然言語処理	3,500	☐ HI-MM	ヒューマンインタフェース	3,000
☐ DBS-BB	データベース・システム	3,500	☐ CG-NN	グラフィクスと CAD	3,500
☐ AI-CC	人工知能	3,000	☐ NA-OO	数値解析	3,000
☐ SYM-DD	記号処理	2,500	☐ IS-QQ	情報システム	3,500
☐ SE-EE	ソフトウェア工学	3,000	☐ PRG-RP	プログラミング —言語・基礎・実践—	3,000
☐ MIC-FF	マイクロコンピュータと ワークステーション	3,000	☐ FI-SS	情報学基礎	3,000
☐ ARC-GG	計算機アーキテクチャ	4,000	☐ CE-TT	コンピュータと教育	3,000
☐ OS-HH	オペレーティング・システム	2,500	☐ AL-UU	アルゴリズム	3,500
☐ CV-JJ	コンピュータビジョン	3,500	☐ CH-VV	人文科学とコンピュータ	2,500
☐ DA-KK	設計自動化	3,500	☐ IM-WW	情報メディア	2,500
☐ DPS-LL	マルチメディア通信と 分散処理	3,000	☐		

登録申込み _____ 件 合計金額 _____ 円
・請求書 要 (_____ 部) ・ 不 要

自 宅	住所：〒 _____
	Tel. : _____
勤 務 先	住所：〒 _____
	名称： _____
	所属： _____
	Tel. : _____ 内 (_____)

●資料送付は学会誌送付先と同様となります。

※ 登録上の注意

●登録費の払込は登録手続終了後、別途発送いたします登録費専用振替用紙にてご送金願います。

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 階 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925
(社) 情報処理学会 研究会係

年 月 日

研究会発表申込書 (様式 4)

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会											
発表希望の 研究会開催日	年 月 日 ()											
タイトル												
発表者名 (略称所属)												
概要 (50 字以内)												
発表申込者住所	〒			Tel. — — (内線)								
氏 名												

年 月 日受付

研究会名	資料 No.	開催日	幹事送付済み	その他
		年 月 日		

会
告

情報処理学会 第43回 全国大会実施要領

全国大会講演発表申込方法の改正について

——より多くの方に、より良い発表をしていただくために——

第43回全国大会（平成3年後期）からアブストラクトによる講演発表申込の募集に改正します。

より多くの希望者に、より良い発表をしていただく条件（執筆のための十分な準備時間がとれ、より新しい成果を講演原稿に反映できるようにする等）をいろいろと検討してきましたが、現行の本原稿（カメラレディ）による募集方法では改善の余地がありませんので、踏み切ることになりました。

講演参加費の払込時期がアブストラクト提出時になり、時間的制約から提出された原稿の訂正ができなくなることや事務局の処理業務が若干増加する等の問題はありますが、会員の皆様の便宜にかなない、ご希望に添うものでありますので、何卒協力をよろしくお願いいたします。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しく下さい。一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 平成3年10月20日（日）～22日（火）

会場 名古屋大学（名古屋市千種区不老町）

日程一覧 1. 講演申込書の送付

学会誌本号（Vol. 32, No. 4）掲載の講演申込書に記入して、応募規程 IV.1 の申込方法により **7月1日（月）までに（必着）** お送りください。なお7月1日に持参する方は、機械振興会館6階68号室にて受付けています。締切に遅れますと発売できなくなりますので、特にご注意ください。

2. プログラム編成委員会の開催

講演申込書を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。

3. 原稿用紙等の送付

7月中旬に事務局から「論文原稿用紙」等をお送りします。講演番号も同時に通知いたします。

4. 講演論文等の提出

講演論文原稿および登録原稿等を一括して **9月3日（火）** までに、学会事務局に必着するようご提出ください。

5. 大会プログラムを学会誌9月号（Vol. 32, No. 9）に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

応募規程 I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。

2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。

2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。

3. 平成3年度会費未納の会員は発表できません。

4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。

ただし、奨励賞の表彰対象者にはなれません。

III. 講演論文該当分野

1. 情報科学一般

A. 一般, B. 社会, C. 教育

2. 基礎理論及び基礎技術
 - A. 情報数学, B. 情報理論及び OR, C. データ解析, D. 数値計算, E. シミュレーション
 3. 人工知能及び認知科学
 - A. 基礎理論, B. 人工知能システム, C. 自然言語処理, D. パターン認識, E. 生体情報処理, F. 感性情報処理
 4. データ処理
 - A. 音声処理, B. 画像・図形処理, C. テキスト処理, D. マルチメディア処理
 5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論, B. プログラム言語及び仕様記述言語, C. 言語処理系, D. ツール, E. オペレーティングシステム, F. データベース・情報検索, G. プログラミング技術
 6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術, B. テスト・保守, C. ソフトウェアプロセス, D. 開発環境, E. ヒューマンファクタ
 7. ハードウェア
 - A. 基礎理論, B. 論理回路, C. デバイス, D. アーキテクチャ, E. 周辺・端末, F. 設計技術及び設計自動化, G. 開発環境, H. テスト・検証
 8. ネットワーク
 - A. 通信技術, B. ネットワーク管理, C. コンピュータネットワーク
 9. システム
 - A. 対話型システム, B. オンラインシステム, C. 制御システム, D. システム評価
 10. 信頼性と安全性
 - A. 信頼性, B. 機密保護
 11. 応用
 - A. 企業等への応用, B. 工学等への応用, C. 芸術等への応用, D. その他への応用
- IV. 申込方法
1. 本号会告のページ掲載の「**全国大会講演申込書**」に必要事項を記入して**7月1日(月)までに(必着)** 申込むこと。
 2. 講演申込は講演申込書および講演参加費を添えて申込むこと。
 なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、まとめて送付すること。
- V. 申込件数
1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
 2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。また、別紙にて標題、発表分野を明記し、まとめて送付すること。
- VI. 講演参加費
1. 1件につき、会員は**7,000円**、学生は**4,000円**です。
 2. 講演申込書を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。
- VII. 論文原稿提出
1. 論文原稿は、**9月3日(火)**(必着)までに提出してください。
 2. 論文は日本語または英語とします。
 3. 論文抄録を「学会発表データベース(第一系)、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
 4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
 5. **論文原稿提出後の訂正は一切取扱いません。**よく推敲して提出してください。
- VIII. 論文の採否
- 講演論文の採否は大会運営委員会(プログラム編成委員会)が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。
1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
 2. 内容が商業宣伝に偏したもの(極端な商品名の引用には注意する)。
 3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。

4. 応募規程に違反するもの。
 5. 提出期限に遅れたもの（次回への応募をお薦めします）。
- IX. 論文集の配布
- 発表者には講演論文を含んだ論文集 1 冊を事前に郵送します。
- X. 発表論文の別刷はいたしません。
- XI. 発表当日の講演者心得
1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
 2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の隣に設けられた講演者控え席で待機する。
 3. 一般講演の時間は、質疑を含めて 15 分間とします（都合により 13 分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れで打ち切ります。
 4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します。
 5. 講演の代理（読）は認めません。
- XII. 申込先及び問合せ先
- （社）情報処理学会 全国大会係
- 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (3505) 0505

情報処理学会欧文誌 Journal of Information Processing

特集 グラフィクス 論文募集

欧文誌編集委員会

グラフィクスの研究開発の環境は、最近のワークステーションの普及と高性能化にともない急速に変化してきています。これに伴って、ユーザインタフェースとしてのグラフィクスの役割はますます重要なものとなり、その応用分野が広がってきています。その欧文誌（JIP）において「特集グラフィクス」を平成 4 年 6 月を目標に発行することにいたしました。このテーマに関する論文を募集しますので、奮ってご寄稿ください。

1. 対象分野

（主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれに限りません）

- グラフィクスの基礎：表示技術、リアリズムの追及、グラフィクス入力、データ構造とデータベース、マンマシンインタラクション
- グラフィクスシステム：グラフィクス言語とソフトウェア、グラフィクスデバイスとワークステーション、標準化
- グラフィクスの応用：アニメーションとアート、ビジネスグラフィクス、文書や画像の処理、CAD、応用事例

2. 執筆要綱

最初のページに「特集グラフィクス」と朱記してください。この他の執筆要綱は通常の論文と同じです。各 JIP の末尾に掲載されている「Information for Authors」を参照してください。

3. 締切日

平成 3 年 9 月 30 日（月）必着

4. その他

この特集号ではカラー印刷の使用可能です。詳細は学会事務局までお問い合わせください。

情報処理学会第 43 回全国大会
講演申込書

掲載 ページ	
-----------	--

受番	付号	
講番	演号	

第 43 回全国大会に下記により講演申込をいたします。

標 題 (注 1)					
フリガナ (注 1)					
著 者 名					
所 属 名					
フリガナ			← 注) 講演者を○印で表示して下さい。 (氏名の左上)		
著 者 名					
所 属 名					
論文該当分野 (注 2)	(1)	(2)	(3)	*1 (注 3)	*2 (注 3)

注 1) 学会誌発表および論文集掲載の「プログラム」は本欄記入事項により作成しますので、題目、氏名はみだりに変更しないでください。
注 2) 論文募集要領の論文該当分野表を参照し、できるだけふさわしい分野をご記入ください。優先順位順に複数分野を記入してけっこうです。(例 “ソフトウェア工学分野, 開発環境” の場合, 6D と書く)
注 3) 複数件講演申し込みをされる方は他の申込書の論文該当分野を上欄の *1 または *2 に記入してください。

論 文 要 旨 (300 字程度)

第 43 回 全国大会講演発表用原稿用紙送付宛名

◎ 原稿用紙等の送料として郵便切手 175 円を添付のこと。

講演番号		(楷書でハッキリ記入して下さい)
原稿用紙送付先	〒	
機 関 ・ 部 課 名		
氏 名	殿	
Tel.	(ex.)	Fax.

この連絡票は講演参加費の入金を正確に把握するためのものです。下記の点に注意してご記入願います。

- 44

44

「並列処理シンポジウム JSPP '91」開催について

21世紀に向けた新しい並列処理技術に対する期待は最近とみに高まっております。並列処理シンポジウムは、並列処理の基礎理論、アルゴリズム、ソフトウェア、アーキテクチャ、応用などの広範な分野について、研究・開発・製造にたずさわる人、利用する人が一堂に会して議論し、それを通じてさらなる飛躍をもたらすことを目的としています。

今回で3回を迎える並列処理シンポジウムはこれまで日本における並列処理の中心的な研究交流の場の1つとして、ホットな話題を提供してきました。昨年行われた第2回並列処理シンポジウム JSPP '90では、約250人の参加者を得て活発な議論が展開され、日本の並列処理研究の水準の高さを印象づけました。第3回のJSPP '91では、さらに学際的な並列処理研究の発展を目指して、並列処理研究のトップレベルの研究発表を中心に、並列処理の核心に迫る議論が期待されております。3日間の開催期間中、57件の一般発表と2件の招待講演、1件のパネル討論を予定しています。ぜひ、多数の方々のご参加をお待ちしております。

日 時 1991年5月14日(火)～5月16日(木)

場 所 神戸国際会議場(ポートアイランド)

交 通 ●山陽新幹線新神戸駅より地下鉄にて三宮駅へ。

●三宮駅(JR・地下鉄・阪神・阪急)よりポートライナーにて市民広場前下車2分。

●新神戸駅よりタクシーで約15分、三宮駅よりタクシー約10分。

共 催 情報処理学会データベース研究会、同計算機アーキテクチャ研究会、同オペレーティングシステム研究会、同数値解析研究会、同プログラミング言語研究会、同アルゴリズム研究会、電子情報通信学会コンピュータシステム研究会

協 賛 日本ソフトウェア科学会

参 加 費 正会員 25,000円 非会員 30,000円 学生(含大学院生) 10,000円
(論文集のみ、5,000円(送料込み))

☆共催、協賛学会員は正会員として扱います。

☆参加費には、懇親会費が含まれています。

申込締切 1991年(平成3年)4月22日(月)

申込み先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 シンポジウム(JSPP '91)係

Tel. 03 (3505) 0505, Fax 03 (3584) 7925

注) 1. 参加申込み後の取消は、一切できません。

2. 会場等の準備の都合上、お申込みはお早めをお願いいたします。

宿泊設備

以下に示すホテルに宿泊枠を確保してありますので、ご予約の際には、「JSPPに参加する」との旨をお伝えください。なお、宿泊枠が確保されている期限は4月半ばないし4月末までです。また、それまでに宿泊枠が尽きれば、それ以後の予約は一般と同じ扱いになります。

宿泊枠確保したホテルおよび紹介するホテル

宿泊料金はすべてサービス料、税込み料を示してあります。

●ビジネスホテル三陽(中央区北長狭通 2-1-6, Tel: 078 (392) 0356) 三宮駅徒歩3分

S6,000(込み、15室確保) T10,000(込み、5室確保)(4月末まで)

●第2北上ホテル(中央区加納町 4-1-8, Tel: 078 (392) 0401) 三宮駅徒歩3分、ポートピアまで20分

S6,300(込み、20室確保) T11,000(込み、5室確保)(4月15日まで)

●神戸プラザホテル(中央区元町通 1-13-12, Tel: 078 (332) 1141) 三宮駅徒歩7分、ポートピアまで25分

S6,952(込み、20室確保) T12,978(込み、5室確保)(10%引き、4月14日まで)

また、以上の他にもたとえば次のようなホテルなどが利用可能です。ただし、扱いは一般の宿泊日扱いとなりますのでご注意ください。

●神戸タワーサイドホテル(中央区波止場町 6-1 Tel. 078 (351) 2151)

元町駅徒歩10分、ポートピアまで40分(タクシーだと15分)

S4,871(込み) T9,630(込み)

- カサベライン神戸 (兵庫区西上橋通 1-4-27 Tel. 078 (578) 0001)
地下鉄大倉山徒歩3分, ポートピアまで30分
S 7, 210 (込み) T 14, 420 (込み)
- クオリティン神戸 (中央区磯上通 4-1-12 Tel. 078 (241) 2233)
貿易センター徒歩5分, ポートピアまで15分
S 7, 364 (込み) T 12, 463 (込み)
- ポートピアホテル (中央区港島中町 6-10-1 Tel. 078 (302) 6877)
ポートライナー市民広場前駅下車1分, JSPP '91 会場すぐ近く
S 14, 500 (込み) T 25, 000 (込み)

[スケジュール表]

5/14 (火)	10:00~	受付開始		
	13:20~13:30	開会の辞・実行委員長挨拶 (0 A会場)		
	13:30~15:00	X 1 (1 A会場) 司会 村岡 (早大) 「並列処理コンパイラのアルゴリズム」 Constantine Polychronopoulos 招待講演 (Center for Supercomputing R&D, Univ. of Illinois) 「並列処理コンパイラとメモリ管理」 Dennis Gannon (Indiana Univ.)		
	15:00~15:30	コーヒーブレイク		
	15:30~17:30	Arch-1 (2 A会場) データベース&メモリ 座長 田中(英) (東大)	App-1 (2 B会場) 数値処理 座長 小柳(義) (筑波大)	Neuro (2 C会場) 超並列近似計算モデル 座長 小池 (日電)
	18:00~20:00	懇親会 (ポートピアホテル)		
5/15 (水)	9:00~10:30	Arch-2 (3 A会場) 並列推論マシン 座長 弓場 (電総研)	Arch-3 (3 B会場) 専用マシン 座長 西澤 (松下)	Sys-1 (3 C会場) 並列言語 座長 柴山(悦) (龍谷大)
	10:30~11:00	コーヒーブレイク		
	11:00~12:30	Arch-4 (4 A会場) スーパスカラアーキテクチャ 座長 長島 (日立)	App-2 (4 B会場) LSI 用 CAD 座長 山口 (電総研)	Bas-1 (4 C会場) 並列計算モデル 座長 曾和 (名工大)
	12:30~14:00	昼食		
	14:00~15:30	Arch-5 (5 A会場) データフローマシン 座長 富田 (京大)	Arch-6 (5 B会場) 相互結合網 座長 金田 (神戸大)	Sys-2 (5 C会場) 並列システムと評価 座長 雨宮 (九大)
	15:30~16:00	コーヒーブレイク		
	16:00~18:00	X 2 (6 A会場) パネル「将来の並列処理のあるべき姿—今なにをすべきか」 モデレータ林 (富士通研) パネリスト 平木 (東大), 笠原 (早大), 喜連川 (東大), 瀧 (ICOT), 石川 (電総研)		
5/16 (木)	9:00~10:30	Arch-7 (7 A会場) マルチプロセッサ・I 座長 服部 (富士通研)	App-3 (7 B会場) 人工知能&データベース 座長 松本(裕) (京大)	Sys-3 (7 C会場) 並列化コンパイラ 座長 安村 (慶大)
	10:30~11:00	コーヒーブレイク		
	11:00~12:30	Arch-8 (8 A会場) マルチプロセッサ・II 座長 馬場 (宇都宮大)	Bas-2 (8 B会場) アルゴリズム 座長 萩原 (阪大)	Sys-4 (8 C会場) 並列 OS 座長 益田 (東大)

「並列処理シンポジウム JSPP '91」

参 加 申 込 書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員、賛助会員 25,000 円 非会員 30,000 円 学生（含大学院生）10,000 円

＊共催／協賛学会員は正会員として扱います。下記氏名欄の後ろに学会名も合わせてご記入願います。

＊参加費には、資料代、懇親会費が含まれています。

○論文集のみ（5,000 円、送料込） _____ 冊

○送金方法

＊ _____ 円を a) 当日、会場受付にて支払います。

b) _____ 月 _____ 日送金します。

＊（b を選択した方のみご記入ください）

b-1) 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

（社）情報処理学会シンポジウム（JSPP '91）係 Tel. 03 (3505) 0505)

b-2) 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____ 銀行宛

・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より

・送金人名義 _____ 様

＊請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通、見積書 通、納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

（楷書でハッキリ記入してください）

申込者
連絡先 〒 _____機関・
部課名 _____

フリ ガナ 氏 名 _____ 殿 (_____) 学会名

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

E-mail _____

「オブジェクト指向ソフトウェア技術シンポジウム」開催について

標記シンポジウムを、ソフトウェア工学研究会が主体となり開催いたします。下記の要領により実施いたしますので、みなさま奮ってご参加ください。

日 時 平成3年5月30日(木)、31日(金)

場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)

参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生 1,500 円(論文集のみ 5,000 円)

申込締切 5月20日(月)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日 5月30日(木)

招待講演(9:00~10:00)

- オブジェクト指向と将来の情報処理

米澤 明憲(東大)

— 休 憩 (10:00~10:15) —

セッション 1 (10:15~11:45)

座長 宇都宮公訓(筑波大)

- ODETTE: オブジェクト指向 CLOS をベースとした設計支援構築環境

湯浦 克彦(日立), 高橋 久(日立超 LSI エンジニアリング)

- 機能モデルに基づくソフトウェアの変更支援

小橋 哲郎, 山田 宏之, 相原 恒博(愛媛大)

- 動的クラス分け論理プログラミング言語によるオブジェクト指向分析の支援

飯島 正, 本位田真一(東芝)

— 昼 食 (11:45~12:45) —

セッション 2 (12:45~13:45)

座長 深澤 良彰(早大)

- オブジェクト指向言語で記述された仕様の再利用によるプログラム自動生成

橋本 正明, 岡本 克己, 佐藤 正和, 横田 和久(ATR)

- オブジェクト指向に基づく部品化法の提案

堀 正弘, 山崎 誠一(NTT)

— 休 憩 (13:45~14:00) —

セッション 3 (14:00~15:30)

座長 久世 和資(日本 IBM)

- プロトタイプに基づく並行オブジェクト指向プログラミング言語の設計と実装

市来 伸彦, 上原 稔, 所 真理雄(慶大)

- オブジェクト指向プログラムにおけるインヘリタンスの使われ方

— アプリケーションプログラムをもとにした解析とその分類 —

北山 文彦(日本 IBM)

- オブジェクト指向によるグラフィカルユーザインタフェース記述について

松永 賢次, 小山 聡, 松井 陽子, 橋本 武, 山本 喜一(慶大)

— 休 憩 (15:30~15:45) —

ミニチュートリアル (15:45~17:00)

- オブジェクト指向 CASE の動向

佐原 伸(SRA), 中谷多哉子, 藤原 晃延(富士ゼロックス)

第2日 5月31日(金)

招待講演(9:00~10:00)

- 平均的プログラマのパラダイムシフト

大野 旬郎(東芝情報システム)

— 休 憩 (10:00~10:15) —

セッション 4 (10:15~11:45)

座長 峰尾 欽二(日本ユニシス)

- データベースにおけるオブジェクト指向問い合わせ言語処理

藤井 善也, 伊藤 英則(名古屋工大)

- 拡張可能 DBMS MODUS におけるオブジェクト管理機構について

于 旭, 古瀬 一隆, 石川 佳治, 山口 和紀, 北川 博之, 大保 信夫(筑波大)

- 持続性オブジェクトシステム上のバージョン操作について

天満 隆夫, 河野 真治(ソニー)

— 昼 食 (11:45~12:45) —

セッション 5 (12:45~14:15)

座長 原田 賢一(慶大)

- オブジェクト指向の並列分散化に関する考察

吉田 紀彦(九大)

- 大規模システムへのオブジェクト指向設計の適用：ケーススタディ 上原 三八（富士通研）
 - ソフトウェア開発プロセスのモデル化に関する一考察 檀山 淳雄（情報処理振興事業協会技術センター）
- 休憩 14：15～14：30 —

パネル討論（14：30～17：00）

- オブジェクト指向はソフトウェア開発の新しい方法論として有効か？
司会 玉井 哲雄（筑波大）、松本 正雄（日電）、大槻 繁（日立）、本位田真一（東芝）

本会協賛等の行事案内*

第172回講習会「ここまできたマイクロアクチュエータ・メカニズム」

平成3年5月30日（木）

東京工業大学百年記念館

日本機械学会関西支部第182回講習会

平成3年6月27日（木）～28日（金）

大阪・関西大学100周年記念会館

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール（Ⅰ）

コース「ディジタル制御理論入門」

平成3年7月1日（月）、3日（水）、8日（月）、10日（水）、12日（金）

大阪マーチャンダイズマートビル

平成3年電気学会電子・情報・システム部門全国大会

平成3年7月16日（火）～17日（水）

千葉・東京理科大学理工学部

情報機器・精密機器の最新技術開発動向講習会

平成3年7月18日（木）～19日（金）

東京・コクヨホール

教育工学関連学協会連合 第3回全国大会

平成3年11月2日（土）～4日（月）

大阪大学

第8回色彩工学コンファレンス

平成3年11月18日（月）～19日（火）

東京・科学技術館

東京現代音楽祭「電楽」

平成3年12月7日（土）

音楽の友ホール

* 詳細は本号会議案内欄参照

「オブジェクト指向ソフトウェア技術」シンポジウム

参 加 申 込 書

平成 3 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員、賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

*参加費には、資料代が含まれています。

○資料のみ（5,000 円、送料込）_____冊

○送金方法（該当するものを○でかこむ）

合計_____円を

a) 当日、会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____月 _____日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 第一勧銀虎ノ門支店 1013945 | 4. 富士銀行虎ノ門支店 993632 |
| 2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 | 5. 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739 |
| 3. 住友銀行東京公務部 10899 | 6. 三和銀行東京公務部 21409 |

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通、見積書 通、納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（FAX も可）

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

.....
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関・
部課名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

第 12 回 IEEE 分散処理システム国際会議 (ICDCS-12) の 論文募集の案内

分散処理システム国際会議 (IEEE International Conference on Distributed Computing Systems (ICDCS)) は、1979 年に第 1 回がハンツビル (米国) で開催されて以来、米国、欧州で開催されてきましたが、1992 年の 6 月に第 12 回目の会議がアジアではじめて横浜 (日本) で開催されることになりました。ICDCS は、分散オペレーティングシステム、分散アーキテクチャ、分散データベースシステム等の分散処理システムについての最大の国際会議であり、最近では、グループウェア、分散人工知能も加え、分散処理システムに関する幅広い分野について、世界の第一線の研究者が一堂に会し、熱心な発表と討論がなされています。この機会に、多くの研究者、技術者の方々の参加をいただき、分散処理に係わる国際的な研究水準の向上に貢献することができればと願っております。ふるって、論文を投稿されるようお願いいたします。

開催期日 1992 年 6 月 9 日 (火)～6 月 12 日 (金)

開催場所 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1)

トピックス

分散・並列コンピュータアーキテクチャ	通信アーキテクチャ
プロトコル工学	分散オペレーティングシステム
分散データベース	言語・ツール・ソフトウェア工学
信頼性とフォールトトレランス	モデリング・性能評価
分散アルゴリズム	リアルタイム応用
コンピュータ支援協調作業	分散人工知能

主 催 IEEE Computer Society
情報処理学会

協賛 電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会 (申請中)

論文投稿 論文発表希望の方は、1991 年 10 月 15 日までに、英文 (ダブルスペースで 20 ページ以下) の論文のコピー 6 部を下記まで送付してください。採否は、1992 年 2 月 15 日までに通知されます。採録された論文については、1992 年 3 月 15 日までに、カメラ・レディで論文を提出してください。

送 付 先 Prof. Joseph E. Urban
Program Co-chair, ICDCS-12. Arizona State University
College of Engr./Appl. Sciences,
Computer Science Department,
Tempe, AZ 85287-5406
U. S. A.
Tel. +1-602 (965) 2774 Fax. +1-602 (965) 2751
e-mail j.urban@compmail.com

本会議についての詳しい内容については、下記まで問い合わせください。

第 12 回分散処理システム国際会議 (ICDCS-12)	または
プログラム委員長 松下 温	松下 温
(財)日本学会事務センター気付 (上原, 佐原)	慶応義塾大学理工学部計測工学科
553 東京都文京区本郷 3-23-1	223 横浜市港北区日吉 3-14-1
Tel. 03 (3817) 5831 Fax. 03 (3817) 5836	Tel. 045 (563) 1141 Fax. 045 (562) 7625
	e-mail on@inst.keio.ac.jp

「DA シンポジウム '91」論文募集

設計自動化 (DA) 技術は、近年のコンピュータ、VLSI の急速な進歩を支える重要技術のひとつであり、その進展もまた急であり、技術革新の動きは活発です。特に、最近では論理 DA、レイアウト DA、テスト DA といったそれぞれの分野の要素技術だけでなく、システムインテグレーション技術、システムのフレームワークにも多大な関心が集められています。また、CAD システムで用いられる設計技術言語、データフォーマットなどの標準化活動も国際的に活発になってきております。

本シンポジウムではこうした DA 技術の進展に役立つため最新の技術発表と国際的な技術動向情報の交換を目的として発表と討論の場を提供するものです。

日 時 平成 3 年 8 月 29 日 (木)～31 日 (土)

場 所 西浦温泉 南風荘 (愛知県蒲郡市西浦町)

トピックス (予定)

- ・論理合成 (組み合わせ回路合成/最適化、ハイレベル合成など)
- ・自動レイアウト (フロアプランニング、タイミングドリブンレイアウトなど)
- ・テスト設計自動化 (テストパターン生成、テスト容易化設計など)
- ・機能/論理/回路設計支援 (各種シミュレーション、設計言語標準化など)
- ・CAD フレームワーク (CAD ツール統合化、設計工程管理など)
- ・設計システム (シリコンコンパイラ、特定用途向け CAD など)

- 実施方法**
- (1) 本年度から論文集を発行するため、発表申し込み、論文の投稿をお願いします。
 - (2) 応募は、アブストラクト (A 4 判用紙 2 枚程度) を平成 3 年 5 月 31 日までに提出ください。
 - (3) 採否の決定は平成 3 年 6 月 20 日までに連絡します。
 - (4) 本論文は研究会発表の形式で 4 ページ程度とし、平成 3 年 7 月 20 日までに提出ください。

連絡先・論文提出先 (社)情報処理学会 DA シンポジウム係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

Tel. 03 (3505) 0505

情報処理学会への送金口座案内

○会費、購読費、叢書代、シンポジウム・講習会

参加費等 (一般)注)

郵便振替口座 東京 5-83484

銀行振込口座 (いずれも普通預金)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608
住友銀行東京公務部	10899
富士銀行虎ノ門支店	993632
太陽神戸三井銀行東京営業部	4298739
三和銀行東京公務部	21439

○研究会登録費

郵便振替口座 前記に同じ

銀行振込口座 第一勧銀虎ノ門支店 (前記に同じ)

○送金先

社団法人 情報処理学会 Tel. 03 (3505) 0505

注) 全国大会参加費、論文集予約代については、そのつど参加者に特別の振込口座をお知らせします。

「CV '91」論文募集

第1回 日韓コンピュータビジョン共同会議

The First Japan-Korea Joint Conference on Computer Vision

近年、日韓両国においてコンピュータビジョンの研究が活発化しています。しかし、隣国にありながら研究交流の場がないため、互いの研究活動を余り知らないのが実情です。本会議は、両国における研究者の交流をはかると共に、コンピュータビジョン研究の現状を総括し、今後の技術動向を展望する機会です。多数の方々の応募をお願いいたします。

日時 1991年10月10日(木), 11日(金)

場所 KAIST Daeduk Campus, Daejeon, Korea

実行委員長 谷内田正彦(大阪大学)
Chung-Nim Lee (Pohang Institute of Technology)

プログラム委員長 富田 文明(電子技術総合研究所)
Hyun Seung Yang (KAIST)

共催 情報処理学会コンピュータビジョン研究会
電子情報通信学会パターン認識・理解研究会
The Korea Information Science Society
The Korea Institute of Telematics and Electronics
The Korea Institute of Communication Sciences

トピックス コンピュータによる視覚情報処理: 画像処理・理解, 文字・図面認識, 文書処理, 3次元センシング, 3次元復元, 物体認識, モーション, ロボット, アーキテクチャ/ハードウェア, ニューラルネット, 応用(医学, 産業, リモートセンシングなど), その他.

実施方法 (1) 題目, 発表者名, 所属, 論文概要(英文, 200~400語)を下記連絡先にお送りください.
(2) 論文概要締切 1991年6月20日
(3) 論文採否通知 1991年7月31日
(4) 原稿締切 1991年8月31日

連絡先 305 つくば市梅園 1-1-4
電子技術総合研究所 富田 文明
Tel. 0298 (58) 5954
Fax. 0298 (58) 5961
E-mail tomita@etl.go.jp

夏のシンポジウムのお知らせ

今年の夏のシンポジウムは「計算機教育」のテーマで計算機教育における多様な問題を話題にとりあげることになりました。

日 時 7月24日(水)午後～26日(金)午前
場 所 文部省共済組合箱根宿泊所静雲荘(箱根登山鉄道強羅駅より徒歩5分)
定 員 50名
参 加 費 25,000円

話題の例: 非専門家のための計算機教育

計算機教育とプログラム言語
企業におけるプログラマー教育
障害者のための計算機教育
初等中等教育における計算機教育の基礎
大学一般教育における計算機教育
計算機援用計算機教育

発表希望の方は 題名, 内容, 発表者の氏名, 性別, 所属, 連絡先(e-mail address も)を5月10日までに情報処理学会シンポジウム係(106 港区麻布台 2-4-2 保科ビル 03(3505)0505)までお送りください。
また, 発表を聞くだけの参加はその旨を明記してお申し込みください。

幹 事: 三好和憲(工学院大) fax. 03(3348)3486 e-mail miyoshi@sin.cc.kogakuin.ac.jp
久野 靖(筑波大) fax. 03(3942)6829 e-mail kuno@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp

「ソ連科学アカデミ 一般物理研究所研究者とのレーザに関するセミナー」の開催について

標記セミナーが日本工学会の主催により開催されます。下記の要領にて実施されますので、レーザに関心のある会員は奪ってご参加ください。なお、発表は英語で行われますが通訳がつきます。

日 時 平成3年5月23日(木)
会 場 健保会館(港区南青山1丁目, 営団地下鉄日比谷線乃木坂下車すぐ)
講 演 者 Institute of General Physics (IGP) 副所長 Vyacheslav V. Osiko
IGP 固体レーザ分光研究室長 Tasoltan T. Basiev
IGP レーザ光学/エネルギー緩和過程研究室長 Alexander A. Danilov
IGP 高密度レーザ材料研究室長 Boris I. Denker
ほか日本人講演者1名(予定)
参 加 費 会員(大学・高専)10,000円, 会員(企業)20,000円, 非会員30,000円, 定員100名に達し次第締切ります。
申込締切 平成3年5月10日(金)必着
申込方法 はがきまたは FAX にて下記にお申込ください。その際氏名・年齢・勤務先・同住所・所属学協会名・同会員番号を必ず明記してください。
なお, 参加費は申込締切後, ご請求申し上げますので, 指定銀行口座にお振込みください。
申 込 先 107 東京都港区赤坂 9-6-41 (社)日本工学会 Tel. 03(3475)4621, FAX 03(3403)1738

平成3年度 第33回 通常総会の開催について

平成3年度通常総会を下記によって開催いたします。ぜひご出席ください。なお、総会の案内状は、正会員各位に4月下旬別途郵送いたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時	平成3年5月20日(月) 16:00~17:40
会 場	機械振興会館ホール(地下2階)
総会次第	1. 会長あいさつ 2. 平成2年度事業報告および決算報告 3. 平成3年度事業計画および予算審議 4. 平成2年度功績賞の発表と表彰 5. 平成2年度論文賞の発表と表彰 6. 新役員の選定 7. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ(無料)を行います(会場6階66号室)。会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆さまのご出席をお待ちしております。

「学協会共通問題に関するパネル討論会」の開催について

標記パネル討論会が日本工学会の主催により開催されます。下記の要領により実施しますので、興味のある会員は奮ってご参加ください。

日 時 平成3年4月22日(月) 13:30~16:40

会 場 新橋住友ビル(東京都港区新橋 5-11-3, JR 新橋駅烏森口下車徒歩5分, Tel. 03 (3436) 7717~8)

プログラム

13:30~13:40 挨拶 尾佐竹 洵(日本工学会会長)

13:40~15:40 科学技術の国際化と学協会

〔話題提供〕 内田 盛也(日本工学会政策委員会委員長, 帝人常務理事)

〔パネラー〕 一折 衡中一

上林 弥彦(情報処理学会, 同会国際担当理事, 京都大学教授, 高度情報開発実験施設)

島田 仁(日本鉄鋼協会, 同会専務理事)

堀 幸夫(日本機械学会, 同会元会長, 日本工学会副会長, 日本学術振興会常務理事)

松本順一郎(土木学会, 日本工学会理事, 日本大学教授)

佐々木 元(電子情報通信学会, 同会総務理事, 日本工学会理事, 日本電気取締役支配人)

山本 明夫(日本化学会, 同会元副会長, 早稲田大学教授)

16:00~16:40 科学技術と国際化

〔話題提供〕 佐波 正一(経団連副会長, 東芝相談役)

参加費 1,000円(当日ご持参ください)

申込方法 電話, FAX またははがきにて下記までお申込ください。その際、氏名、年令、勤務先、所属学協会名を必ず記入またはお知らせください。

申込先 107 東京都港区赤坂 9-6-41 (社)日本工学会 Tel. 03 (3475) 4621, FAX 03 (3403) 1738

平成3年度各種行事の予定について

4月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご留意ください。

行 事	期 日	会 場
第33回 通常総会	5・20 (月)	機械振興会館
第43回 全国大会	10・20 (日)～22 (火)	名古屋大学
第44回 全国大会	(未 定)	(未 定)
平成3年電気・情報関連学会連合大会 (共催)	9・10 (火)～12 (木)	東京電機大学
~~~~~		
(シンポジウム)		
1991年並列処理	5・14 (火)～16 (木)	神戸国際会議場
オブジェクト指向ソフトウェア技術	5・30 (木)～31 (金)	機械振興会館
6th Joint Workshop on Computer Communications	7・17 (水)～19 (金)	北九州プリンスホテル
第24回 情報科学若手の会	7・29 (月)～31 (水)	多摩市
夏のシンポジウム	8・24 (土)～26 (月)	箱 根
DA シンポジウム '91	8・29 (木)～31 (土)	蒲郡市
自然言語処理と知識獲得	10・28 (月)～29 (火)	機械振興会館
マイクロコンピュータアーキテクチャ	11・12 (火)	"
マルチメディア通信	11・14 (木)	"
グラフィクスと CAD	11・20 (水)～21 (木)	"
知識のリフォーメーション	11・27 (水)～28 (木)	東京大学山上会館
利用者指向の情報システム	12・5 (木)～6 (金)	機械振興会館
情報工学科のコアカリキュラム 運用とその問題点	12・13 (金)～14 (土)	"
アドバンスト・データベース・システム	12・18 (水)～19 (木)	"
第33回 プログラミング・シンポジウム	平成4年 1・8 (水)～10 (金)	箱根・ホテル小涌園
(講習会)		
連続セミナー	4・25 (水)	機械振興会館
	6・25 (火)	"
	8・22 (水)	"
	10・24 (水)	"
	12・12 (水)	"
平成4年	2・20 (木)	"
人物のモデリングとレンダリング	9・27 (金)	"
(共 催)		
第22回 画像工学コンファレンス	12・10 (火)～12 (木)	ABC 会館
1991情報学シンポジウム	平成4年 1・8 (火)～9 (水)	日本学術会議講堂
(国際会議共催)		
The 15th Annual Int'l. Computer Software and Applications Conference	9・9 (月)～13 (金)	工学院大学 (新宿)

## 支 部 だ よ り

## 平成 3 年度支部総会について

各支部の通常総会が下記のとおり開催されますので、ぜひご出席ください。なお、各支部総会の案内状は、支部内の正会員各位に別途郵送されますが、ご欠席の場合には必ず委任状をご送返ください。

支 部	日 時	会 場	講 演 会
北 海 道	4 月 26 日 (金) 17 : 00 ~ 18 : 00	北海道大学学術交流会館 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)	(情報処理北海道シンポジウム '91) 13 : 00 ~ 14 : 30 北海道大学医学部附属病院における 医療情報システム 入江五朗 (北大)
東 北	5 月 10 日 (金) 14 : 00 ~ 15 : 00	東北大学工学部電気情報系 (仙台市青葉区荒巻字青葉)	15 : 20 ~ 17 : 00 (演題未定) 淵 一博 (ICOT)
中 部	5 月 8 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 30	愛知厚生年金会館 (名古屋市千種区池下町 2-63)	15 : 30 ~ 17 : 00 電子化辞書, そして言語と知識 横井俊夫 (EDR)
関 西	未定 (5 月中旬)	(詳細は支部正会員に別途連絡します)	
中 国	5 月 10 日 (金) 14 : 30 ~ 15 : 00	NTT 袋町ビル 2 階会議室 (広島市中区袋町 6-11)	15 : 00 ~ 16 : 30 広域ネットワーク (予定) 石田晴久 (東大)
四 国	4 月 12 日 (金) 14 : 30 ~ 15 : 00	えひめ共済会館 (松山市三番町 5-13-1)	15 : 00 ~ 16 : 00 光通信の現状と将来 杉元重時 (日電)
九 州	5 月 10 日 (金) 13 : 30 ~ 14 : 30	九州大学大型計算機センター 多目的講習室 (福岡市東区箱崎 6-10-1)	14 : 30 ~ 16 : 00 情報系学部・学科ありかたについて 吉田 将 (九工大)

## 北海道支部 情報処理北海道シンポジウム '91—Info-Hokkaido '91

日 時 平成 3 年 4 月 26 日 (金) 9 : 00 ~ 17 : 00

会 場 北海道大学学術交流会館 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

特別講演 13 : 00 ~ 14 : 30 (聴講自由, 聴講無料)

演 題 北海道大学医学部附属病院における医療情報システム

入江 五朗 (北 大)

チュートリアル 9 : 00 ~ 12 : 00

内 容 UNIX ネットワークの管理とプログラミング

三谷 和史 (北 大)

参 加 費 情報処理学会会員及び賛助会員 3,000 円, 一般 5,000 円, 学生 (大学院生を含む) 1,500 円

参加費は当日会場受付で支払うこと。

申込方法 電話又は官製はがきで, 住所, 氏名, 電話番号, 所属学会, 勤務先又は大学名・学科・学年を下記の事務局まで連絡すること。申込みは, 開催日の 1 週間前まで。定員 (30 名) になり次第締切り。

一般講演 9 : 00 ~ 12 : 00, 14 : 30 ~ 17 : 00 (聴講自由, 聴講無料)

講演内容 情報処理に関する最近行った研究及び調査の報告, 新しい企画及び開発の報告, 新製品 (ソフトウェア, ハードウェア, システム) の紹介など。

問合せ先 060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学工学部情報工学科内 情報処理学会北海道支部  
Tel. 011 (716) 2111 (内 6819)

**東北支部 支部大会講演募集——平成2年度電気関係学会東北支部連合大会——**

**期 日** 平成3年8月29日(木), 30日(金)

29日(木) 午前: 一般講演・技術報告

午後: 一般講演・技術報告, 特別講演 夜: 懇親会

30日(金) 一般講演・技術報告

29, 30日の両日 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)

**会 場** 八戸工業大学(八戸市大字妙字大開 88-1, JR 八戸線本八戸駅下車, 駅裏から市営バス工業大学行 25分, または徒歩7分で八日町から市営バス工業大学行)

**講演内容** 一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表

技術報告 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等, 特に現場に直結した実験研究の発表

講演者は, 主催学会会員に限る。連名の場合は会員外を含むことも差支えない。講演時間は, 1件15分以内(討論時間を含む)とする。

**申込方法** (1) 「講演申込書」は5月中旬から申出により「原稿用紙1,600字」「原稿の書き方」と共に渡す。郵送希望の場合は1~2件175円, 3~6件250円, 7~13件360円, 14件~ 670円分の切手を添えること。

(2) 一般講演及び技術報告の予稿集はオフセット印刷とするので, 必ず所定の原稿用紙を使用すること。

(3) 申込件数の制限は1名2件までとする。ただし連名は差支えない。内容が著しく不適当と思われる場合, 講演を制限する場合がある。

(4) 発表者は講演申込と同時に必ず講演申込金として1件につき3,000円を添えて申込むこと。  
(論文集代, 別刷50部代を含む)

(5) OHPを講演各室に準備する。(希望によりスライドも可)

**申込・原稿締切日** 7月8日(月) 必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする)

**論文集** 発表者には, 大会当日受付にて配布する。購入希望者は, 所要部数を早めに申込むこと(1部2,500円, 郵送希望の場合は, 郵送料1部510円)

**申込・問合せ先** 980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内  
電気関係学会東北支部連合事務局 Tel. 022 (222) 1800 (内 4321) 庄司

**懇親会** 8月29日(木) 18:00~ 場所 八戸市内 会費3,000円

申込は当日大会会場で受付けます。

**宿 泊** とくに斡旋しない。

## 新年度にあたって（お願い）

### ——会費・購読費の請求、新会員勧誘など——

新年度にあたって、会員の皆さまに会費等の納入のお願いとともに、つぎの点につきご確認いただき、あわせてご協力のほどお願いいたします。

#### （１）平成３年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

２月上旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。年度欄の表示に誤りがありご迷惑をかけたこととお詫び申し上げます。なお、未納の方は早急に納入ください。また、預金口座振替の会員は**３月２７日（水）**に自動振替いたしました。振替未済の会員は会員係へお問合せください。

なお、平成４年度会費から預金口座自動振替を希望する会員（正会員に限る）は、所定の**預金口座振替依頼書**（学会会員係へお問合せください）によりお申込みください。

#### （２）大学学部卒業予定の学生会員の会費

本年３月に大学学部卒業予定の学生会員には、平成３年度会費は正会員（9,600円）として請求いたしました。大学院修士課程に進まれた方は、学生会員として継続できますので、会員番号を付し、大学院名・研究科名・専攻名、修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

#### （３）退 会

書面（様式任意、はがき可）にてお申出ください。なお、２年度会費が未納の場合には、昨年４月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

また、２年度会費未納者には、これまで再三にわたり請求いたしております。納付いただけない場合には、本学会から除名することがありますので、ご承知ください。

#### （４）学会誌の送本先変更

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（４月号、１０月号に添付）にて会員番号を付し、早速にご連絡ください。

#### （５）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は２月号本欄に添付の申込書を使用し、お申込みください。

### 新入会員勧誘のお願い

４月は入会に絶好のチャンスです。３月号末尾綴込みの入会申込書（Ｂ５判）で、入会をご勧誘ください。なお、入会申込書の形式を変更しましたので、旧の入会申込書（Ａ４判）は使用しないでください。

## 学会誌送本先の住所等の変更届について（お願い）

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（本号末尾に添付）にて氏名、会員番号を付し、早速にご連絡ください。異動の受付は毎月２０日に締切り、翌月号から変更いたします。２１日以降受付分の変更は翌々月号からとなりますのでご留意ください。

## 海外からの送金方法について

海外からの会費，論文誌購読費，各種行事参加費，各種図書購入費等については，円またはドルの銀行小切手により送金されているが，次のような問題があります。

1. 銀行小切手作成の手間がかかる。
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により，常に過不足を生じ，経理上支障がある。
3. 円またはドルに拘らず，1,500～2,500 円の換金手数料をとられる。

この点を改善するため，海外からは「VISA」および「Master Card」により円立で送金できるようにしましたが，このたび「American Express」と「Diner's Club」を追加したのでお知らせします。なお，申込書様式は次のとおりとなりますが，A 4 判用紙を用い必ず郵送してください (Fax は不可)。

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN

Hoshina Bldg., 2-4-2 Azabudai, Minato-ku

Tokyo 106, Japan

Phone: 81-3-3505-0505 Fax: 81-3-3584-7925

I wish to pay with my credit card. ☐

Circle one:            Master Card            VISA            American Express            Diner's Club

- (1) Card number _____
- (2) Expiry date _____ / _____
- (3) Full name of holder as it appears on the card _____
- (4) Amount _____ Japanese Yen
- (5) Details (annual fees, journal, etc.) _____  
 _____  
 _____
- (6) Mailing address _____  
 _____  
 _____

(Country) _____

Phone _____

Fax _____

Date _____

Signature _____

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥ 1,500 to the total amount. We cannot accept personal check.

Remit to: Information Processing Society of Japan

Bank account no. 046-1013945

Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.

# 第22回画像工学コンファレンス論文募集

## —Japan Imaging Technology 91—

画像工学コンファレンスは、1970年に第1回が開催されてから今回で22回を迎えることになりました。その間、関連学会・研究会の共通の発表・討論の場として、日本の画像関係の研究開発に大いに寄与してまいりました。本年も新たな発展を期し第22回画像工学コンファレンスを開催することにいたしました。

※関連学会・研究会の会員諸氏からの積極的な発表・応募をお願いします。

時 1991年12月10日(火)・11日(水)・12日(木)

所 ABC会館ホール(東京・港区・芝公園)

成 招待講演と応募による一般講演(口頭発表、ポスタ発表)によりおこないます。ポスタ発表とはポスタ会場の決められた場所で図表・写真・実物等を示し、興味を持つ聴衆と自由に質疑・討論を交わしながら研究発表をおこなうものです。招待および一般講演については「募集論文の内容」欄の項目に沿って約10セッションにまとめる予定です。また本年は「これからの画像メディア」と題する特別セッションをおこないます。講演はすべてオーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションができます。なおポスタ発表のなかで優秀な発表に対して賞を贈ります。

【論文の性格】 論文として未発表のものに限り、ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。

【論文の内容】 画像に関する諸技術：①画像入力、ディスプレイ、記録、印刷等に関する画像エレクトロニクス技術 ②視覚、画像符号化、画像計測、画像処理、コンピュータビジョン、映像表現等に関する画像情報技術 ③放送・通信・医用・産業・教育などの分野への応用

【資格】 とくにありません。

加 費 1万円(加盟学会会員) 1万2千円(非会員) 5千円(学生) 論文集を含みます

【論文の審査】 応募論文はプログラム委員会において申込時提出の内容概要を審査いたします。また、プログラム編成上、口頭発表とポスタ発表との変更をお願いすることがあります。

【形式・時間】 口頭発表：質疑応答を含め20分(予定) ポスタ発表：ポスタ会場での発表討議90分(予定)

【申込方法】 A4横書でタイトル・著者・図表などを含め2枚以内の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書(コピー可)を下記の送付先にお送りください。

講演申込締切 1991年7月5日(金) 必着

【集原稿】 採択論文については一般、ポスタとも、図・表・写真を含め7000字以内のカメラレディ原稿(タイプまたはワープロ)を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます(ただし実費自己負担)。

原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月中旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 1991年10月25日(金) 必着

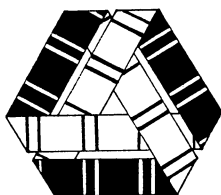
【主催】 第22回画像工学コンファレンス実行委員会(担当 テレビジョン学会)  
【学会・委員会】 応用物理学会日本光学会、テレビジョン学会・情報ディスプレイ研究委員会・視覚技術研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理コンピュータビジョン研究委員会、画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会、日本ME学会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会、計測自動制御学会・パターン計測部会、日本非破壊検査協会、日本医用画像工学会、SPIE日本支部。

【先・問い合わせ先】 〒105 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル 連企画気付  
「第22回画像工学コンファレンス事務局」 ☎FAX (03)3433-2543

目			第22回画像工学コンファレンス講演申込書	
			〒	
			所在地	
			.....	
			機関名	
			.....	
			所 属	
			.....	
			連絡者氏名	
			.....	
			.....	

表形式	使用機器	☎ :
希望	<input type="checkbox"/> VTR	FAX:
ポスタ	(VHS)	
	<input type="checkbox"/> スライド	
	(35mm)	
口 頭	<input type="checkbox"/> OHP	
どちらでも	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

## 会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（＊：本年既掲載分，＊＊：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

### 国際会議

#### JAJSNLP '91—第2回 日豪自然言語処理合同シンポジウム (017)

- 1991年10月2日(水)～5日(土)
- 九州工業大学(福岡県飯塚市)
- NTT 基礎研究所情報科学研究部 小暮 潔  
Tel. 0422 (59) 3678
- 論文締切: 1991年6月3日(月)

#### Procos Symposium (018)

- October 14—18, 1991
- Denmark
- Mrs. Annie Rasmussen Dept. of Comp. Sci., Bldg. 344 Techn. Univ. of Denmark DK-2800 Lyngby, Denmark  
Fax: +45 42 884530, Phone: +45 45 933332,  
E-mail: procos@id. dth. dk, Telex: 37529 dthdia dk

#### MICRO 24—The 24th ACM/IEEE Int'l. Symposium and Workshop on Microarchitecture (019)

- November 18—20, 1991
- Albuquerque, New Mexico
- 日本アイ・ビー・エム(株) 中谷  
Tel. 03 (3288) 8409, FAX 03 (3265) 4251
- 論文締切: June 16, 1991

#### 1992 Int'l. Conf. on Strategic R & D Management—1992 研究・開発マネジメント国際会議 (020)

- 1992年6月16日(火)～18日(木)
- パシフィコ横浜
- (社)日本能率協会 グローバル事業本部  
Tel. 03 (3434) 1988, FAX 03 (3459) 9979

#### Prolamat '92 (021)

- 1992年6月24日～26日
- 虎ノ門パストラル(東京)
- (社)精密工学会 Tel. 03 (3362) 1979

#### Japan Display '92—第12回 ディスプレイ国際会議 (022)

- 1992年10月12日(月)～14日(水)
- 広島国際会議場

- (社)テレビジョン学会  
Tel. 03 (3432) 4677, FAX 03 (3432) 4675

### 国内会議

#### 日本学術会議応用物理学研究連絡委員会特別講演会

- 平成3年5月21日(火)
- 日本学術会議(東京都港区六本木)
- (社)応用物理学会 Tel. 03 (3238) 1041
- 入場料: 無料

#### 第7回 光波センシング技術研究会講演会

- 1991年5月23日(木)～24日(金)
- 幕張メッセ(千葉市)
- 連企画気付 光波センシング技術研究会事務局  
Tel. 03 (3433) 2543, FAX 03 (3433) 2544
- 参加費: 一般10,000円, 学生3,000円

#### 第172回 講習会「ここまできたマイクロアクチュエータ・メカニズム」—最新情報を含む周辺技術の解説と実物を交えた事例紹介—

- 平成3年5月30日(木)
- 東京工業大学百年記念館(目黒区大岡山)
- (社)精密工学会 Tel. 03 (3362) 1979
- 参加費: 会員22,000円, 非会員33,000円, 学生会員1,000円

#### 千里ライフサイエンス情報化対応シリーズ第2回「ライフサイエンス分野におけるデータベースの活用」—ゲノムから蛋白まで—

- 平成3年6月19日(水)
- 阪急グランドビル(大阪市北区角田町)
- (財)千里ライフサイエンス振興財団 情報化対応シリーズ係 Tel. 06 (871) 5535, FAX 06 (871) 5530
- 受講料: 一般10,000円, 大学関係5,000円, 学生3,000円

#### 日本機械学会関西支部第182回 講習会

- 平成3年6月27日(木)～28日(金)
- 関西大学100周年記念会館(大阪府吹田市)
- (社)日本機械学会関西支部 Tel. 06 (443) 2073
- 聴講料: 会員25,000円, 学生6,000円, 非会員40,000円

#### システム制御情報チュートリアル講座イーブンニングスクール(Ⅰ) コース「デジタル制御理論入門」

- 1991年7月1日(月), 3日(水), 8日(月), 10日(水), 12日(金)
- 大阪マーチャンダイズマートビル(大阪市中央区)
- システム制御情報学会 チュートリアル講座係  
Tel. 075 (751) 6413, FAX 075 (751) 6037
- 聴講料: 会員25,000円, 学生20,000円, 非会員35,000円

#### 第26回 SSOR

- 1991年7月15日(月)～18日(木)
- 日本大学経井沢研究所(予定)
- 日本大学生産工学部数理工学科 第26回 SSOR 事務局  
菅澤 喜男  
Tel. 0474 (74) 2668, FAX 0474 (74) 2669

#### 平成3年電気学会電子・情報・システム部門全国大会

- 平成3年7月16日(火)～17日(水)
- 東京理科大学理工学部(千葉県野田市)
- (社)電気学会 全国大会係 Tel. 03 (3201) 0983
- 参加費: 会員3,500円, 非会員4,500円, 学生500円

**情報機器・精密機器の最新技術開発動向講習会**

1. 平成3年7月18日(木)～19日(金)
2. コクヨホール(東京都港区港南)
3. (社)日本機械学会 Tel. 03 (3379) 6781
4. 聴講料: 会員 20,000 円, 学生会員 5,000 円, 非会員 40,000 円

**第8回 色彩工学コンファレンス**

1. 1991年11月18日(月)～19日(火)
2. 科学技術館(東京・竹橋)
3. 共催: 光学四学会  
問合せ先: 連企画気付 色彩工学コンファレンス事務局  
Tel. 03 (3433) 2543
4. 講演申込締切: 1991年7月18日(木)

**教育工学関連学協会連合第3回 全国大会**

1. 平成3年11月2日(土)～4日(月)
2. 大阪大学
3. 東京工業大学教育工学開発センター内 教育工学関連学協会連合事務局 清水 康敬  
Tel. 03 (3726) 1111 (内 3232), FAX 03 (3729) 1320

**東京現代音楽祭「電楽」**

1. 1991年12月7日(土)
2. 音楽の友ホール
3. 主催: 日本現代音楽協会  
問合せ先: NTT 基礎研究所情報科学部 音楽情報科学研究会コンサート担当幹事 小坂 直敏  
Tel. 0422 (59) 2967, FAX 0422 (59) 3394

**教官募集****○大学等情報関係教官募集****福岡工業大学管理工学科**

- 募集人員 助教授1名  
所属 管理工学科  
専門分野 電気, 電子, 情報工学または関連分野  
担当科目 ソフトウェア工学(計算機工学, プログラミング言語)  
応募資格 専門分野に研究業績があり, 博士の学位を有する方, または着任までに取得できる方で, 35歳前後の方. 教育研究の経験のある方が望ましい.  
着任時期 平成3年10月1日, または平成4年4月1日  
提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび主要論文の別刷り  
送付先 平成3年5月31日  
811-02 福岡市東区和白東3丁目30番地の1号  
福岡工業大学教務課長 石田隆男  
Tel. 092 (606) 3131 (内 242)  
問合せ先 福岡工業大学管理工学科教室主任 横川京次  
(内 330)

**茨城大学工学部情報工学科**

- 募集人員 教授4名  
専門分野 プログラミング言語, OS, システム解析, 数理解析  
他情報工学に関する分野  
応募資格 情報工学に関連する分野で博士号を有し, 大学院博士課程の研究指導ができること.  
着任時期 平成3年10月1日から平成4年4月1日の間  
提出書類 履歴書, 研究業績一覧表, 主要論文別刷, 研究計画, 本人についての所見を求め得る方3名の氏名, 所属, 連絡先  
送付先 平成3年5月31日  
316 茨城県日立市中成沢町 4-12-1  
茨城大学工学部情報工学科主任 松山泰男  
Tel. (+81)0294 (35) 6101 (内 389)  
直 (+81)0294 (35) 2658 (FAX 兼用)  
e-mail: opening@ibaraki.ac.jp

**宇部短期大学情報計数学科**

- 募集人員 講師または助手1名  
担当科目 システムプログラム, オペレーティングシステム, データ構造, プログラミング  
応募資格 大学院修士課程修了(修了見込みも含む)以上またはこれに準ずる方, 年齢30歳以下の方  
着任時期 平成4年4月1日までのできるだけ早い時期  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト(学界ならびに社会における活動を含む), 主要論文別刷  
応募締切 平成3年6月末日  
送付先 755 宇部市文京町 5-40  
宇部短期大学事務部総務課長 新造博之  
Tel. 0836 (33) 3111 (内 222)  
問合せ先 情報計数学科主任 吉田信夫(内 261)

**宮崎大学工学部情報工学科**

- 募集人員 教授1名  
所属講座 情報解析システム講座  
専門分野 情報工学の数理的基礎分野, 及び数値解析・数値シミュレーション・画像処理等の計算力学の分野  
応募資格 博士の学位を有し, 上記分野で研究業績のある方.  
着任時期 1991年11月1日(予定)  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷, これまでの研究概要(2,000字), 研究計画(1,000字), 推薦書及び本人について問合せ可能な方2名の氏名・所属・連絡先  
応募締切 平成3年7月15日  
送付先 889-21 宮崎市学園木花台西 1-1  
宮崎大学工学部長 二神光次  
「情報工学教官応募」と朱書き書留.  
問合せ先 情報工学科教授 永田 忍  
Tel. 0985 (58) 2811

**京都大学化学研究所**

- 募集人員 助教授1名  
所属部門 生理機能設計研究部門  
専門分野 計算機科学的アプローチによる遺伝情報の解析.  
これまでの研究歴にかかわらず, 上記の専門分野に意欲をもつ方も歓迎.  
着任時期 決定後なるべく早い時期  
提出書類 履歴書, 業績リスト(主要論文10編以内に丸印をつけること), 論文別刷各2部, 研究経過と今後の抱負(2,000字以内), 推薦書  
応募締切 平成3年8月31日  
送付先 611 宇治市五ヶ庄京都大学化学研究所  
所長 作花済夫

問合せ先 同研究所生理機能設計研究部門 金久 實  
Tel. 0774 (32) 3111 (内 2222, 2225)  
FAX 0774 (32) 8235  
「生理機能設計助教授応募書類在中」と朱書き書留。

#### 群馬大学工学部情報工学科

募集人員 (1)教授2名, 助教授1名, (2)助手3名  
応募資格 (1)については, 学位を有し, 情報工学の中心的分野において, 顕著な研究業績のある方。(2)については, 学位を有するか, それと同等の能力があり, 情報工学の中心的分野で研究業績がある方。  
着任時期 平成3年度内または平成4年4月1日  
提出書類 履歴書, 業績リスト  
応募締切 平成3年9月30日。ただし, 適任者がいれば1~2名をこれ以前に決定することもある。  
送付先 376 桐生市天神町 1-5-1  
問合せ先 群馬大学工学部情報工学科 清水賢資  
Tel. 0277 (22) 3181 (内 812)  
FAX 0277 (47) 3051

#### 青山学院大学経営学部

募集人員 専任講師または助教授1名  
担当領域 生産管理論  
応募資格 大学院の修士課程(博士前期課程)を修了した者, または博士課程(博士後期課程)を修了もしくは修了予定の者で, 経営工学・管理工学・生産工学などの分野での専門的知識を備えて, コンピュータをベースにした総合的な生産システムを経営学の見地から理論的, 実証的に研究し, 講義できること。年齢35歳以下(採用予定日現在)でキリスト者, または本学の教育方針に理解のある者。  
応募締切 平成3年6月1日  
採用予定 平成4年4月1日  
提出書類 履歴書, 修了(見込)証明書, 研究業績目録, 現在及び将来の研究内容についての概要と担当領域の講義内容の概要(それぞれ2,000字以内), 学部及び大学院の成績証明書。  
選考方法 書類審査の合格者に対し論文などの提出を求め, その審査を行い, その合格者に対し最終面接を行う。  
送付先 150 渋谷区渋谷4丁目 425  
青山学院大学学務部教務課気付  
経営学部長 石川信男  
「教員応募書類在中」と朱書き書留。

## 雑報



#### ○平成4年度基礎科学特別研究員募集

採用予定 25名  
受入機関 理化学研究所  
募集分野 物理学, 化学, 生物学, 工学の各分野で, 理化学研究所で実施可能な研究  
応募資格 原則として平成4年4月1日現在35歳未満の健康な者で, 博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有すると認められる者。  
待遇等 ①謝金 月額485千円程度(社会保険料, 税込)  
②通勤費 実費(上限30千円/月)  
③住宅費 家賃の一部支給  
以上のほか, 研究費として1,370千円/年程度  
契約期間 通算3年間を限度とし, 毎年度所要の評価により契約更新  
募集締切 平成3年6月28日必着。応募者は6月7日までに問合せのこと。  
その他 本件は関係予算の成立を前提としており, その事情により変更があります。  
問合せ先 ①100 東京都千代田区霞が関2-2-1  
科学技術庁 科学技術振興局研究振興課  
Tel. 03 (3581) 5271 (内 532),  
03 (3503) 0013 (直)  
②351-01 埼玉県和光市広沢2-1  
理化学研究所研究業務部基礎科学特別研究員担当  
Tel. 0484 (62) 1111 (内 2451~2),  
0484 (63) 3687 (直)

#### ○島津科学技術振興財団「平成3年度研究開発助成および海外研修研究援助応募要綱」

##### 研究開発助成

助成対象 科学技術, 主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とする。ただし, 助成対象者は原則として45歳以下とする。  
助成内容 上記研究に対し, 助成金を交付する。援助金総額2,200万円, 1件につき250万円ないし100万円。  
応募方法 財団所定の研究開発助成申込用紙に必要事項を記入して, 当財団に直接申込む。申込締切は9月30日とする。  
選考審査方法 当財団に設置する選考委員会が選考し, 理事会が審議し決定する。  
交付方法 平成4年2月(予定)に開く贈呈式において助成金を交付する。

##### 海外研修研究援助

援助対象 科学技術に関する海外の研究集会に研究発表のため出席する研究者および海外留学生を援助の対象とする。ただし, 援助対象者は原則として40歳以下とする。  
援助内容 援助件数: 36件程度(1件15万円程度)  
応募方法 財団あて照会のこと, 申込期限: 4月, 7月, 10月, 1月それぞれ末日(年4回)  
連絡先 (財)島津科学技術振興財団事務局  
604 京都市中京区西ノ京下合町 11  
Tel. 075 (823) 3240

#### ○CG OSAKA '91「CG デザインコンテスト」

##### 作品募集

- 応募対象作品
  - CG OSAKA '92のメインデザインとして使用可能な作品
  - コンピュータ・グラフィックスによる静止画であること。
  - 未発表でオリジナルなものに限る。
  - 1人(1グループ)2作品以内を原則とする(シリーズ作品は1作品)
- 応募資格 資格は問いません。(グループも可)
- 応募作品の形態
  - 1作品につき, 下記の2点を提出のこと。

- ① 35 mm ポジフィルム (スライド用マウント付き)  
 ② 六つ切り (カラー) サービス判 (203 mm×253 mm)
4. 応募方法  
 作品は1点ごとに規定の応募用紙に記入のうえ、作品を同封して下記宛て送付のこと。  
 541 大阪市中央区安土町 2-3-13 大阪国際ビル 28 階  
 (社)日本能率協会関西事業本部内  
 CG OSAKA '91 事務局 CG デザインコンステト係  
 Tel. 06 (261) 7151
5. 締 切 日 平成3年5月17日  
 6. 表 彰 平成3年6月12日  
 7. 賞 品
- |        |    |                   |
|--------|----|-------------------|
| デザイン大賞 | 1点 | 賞金20万円と副賞         |
| 優 秀 賞  | 1点 | 賞金10万円と副賞         |
| 奨 励 賞  | 1点 | 賞金10万円と副賞 (学生を対象) |
| 入 選    | 数点 | 賞品                |

参 加 賞 記念品

[入賞は1人 (1グループ) に1点とする]

#### 8. 作品の取扱い

入賞、入選作品の版權は、受賞者に帰属します。ただし、入賞作品は CG OSAKA 事務局において広告・宣伝などに使用できるものとする。なお、応募作品は原則として返却しない。

#### ○第6回 電気通信普及財団「テレコムシステム技術賞」受賞者 (31 巻6号本欄参照)

A Software Design Method and Its Application to Protocol and Communication Software Development (Computer Networks and ISDN Systems 15 '88)

白鳥則郎, 高橋 薫, 野口正一 (東北大) ほか4件, 11名の方の論文が入賞しました。

## 編 集 室



### 会員の声

- 全国大会プログラムの掲載が遅いし、文字が小さい。拡大コピーして見なければならない。全国大会論文集の予約申し込みは2月8日までなのに、プログラムがわかるのが2月号では申し込みにくい。分冊になっても価格が安くならないのは不満である。
- 巻頭言にページはないのか?

(鎌田真人 岩手県立宮古短期大学)

「全国大会へのご意見ありがとうございました。ご指摘のことについて、ご説明しご理解を得たいと思います。第1に大会プログラムの学会誌掲載時期と論文集予約の関係ですが、要因として、発表申込みを本論文と申し込締切日をギリギリまで延ばしたため、プログラム編成が1月下旬となり、会告、論文集の印刷・予約作業を同時に進行させる必要があるためです。第2に大会プログラムの会告の印字の大きさと論文集の価格ですが、これは、理事会の方針として学会収支の改善、各担当事務が検討実施するよう求められており、全国大会についても収支バランス、論文集の価格の改訂 (論文集の価格は10年間据置)、分冊分売とプログラム会告の2分の1化などを他学会を参照しながら実施したものです。

なお、第43回大会 (91・10/20~22名古屋大) から、発表申込をアブストラクトで行い、論文の提出時期を分けるなど、大会申込手続きを変更いたしますので、本号会告をご覧ください、全国大会をより良くしていくため、ご協力をお願いいたします。(事業担当理事)

「巻頭言は目次裏に掲載しているため横組みのページ起しは、右側(見開きにした場合)からスタートしますので本誌もページを入れずに編集しています。」

(編集担当)

### 事務局だよりー役員選挙について

学会の役員選挙が3月行われました。簡単にこれについて解説を行います。一般の株式会社では取締役および監査役が置かれていますが、社団法人である学会にもそれと類似した理事および監事が置かれています。

理事会は会長1名、副会長2名、理事17名であり、そのほか、監事2名の合計22名で構成されている。理事および監事を総称して役員と呼んでいます。

役員の任期は2年で一般会社のように再選は行いません。(数年、間を置いて再選されるケースはある。) 毎年役員の半数の11名を改選している。したがって会長は1年置きに改選で、その年の理事の改選数は8名、会長改選のない年は理事の改選数は9名となる。今年は会長の改選年であり、つまり奇数年が会長の改選年と覚えて置いてください。

これら一連の改選業務は前年の秋、理事会での推薦候補者選びから始まります。

- ①前年の10月理事会までに候補者の推薦権のある歴代会長・副会長、IFIP日本代表、現役員、支部長、研究会主査および学会誌編集WG主査から候補者を推薦してもらう。
- ②この候補者の推薦リストをもとに理事会で順位をつけ、その順位に従い本人に立候補の意思を確認する。
- ③毎年1月の理事会で推薦候補者を決定する。
- ④学会誌2月号会告と共に選挙権のある正会員約3万人に投票用紙を送付する。
- ⑤今年の場合投票締切りは3月6日(水)で、3月中旬に開票、集計作業を完了。この結果を3月理事会にて確認した。
- ⑥5月総会で正式に決定する。

以上どこの選挙も同じであるが、投票率が55%位なので、会員の皆さまには来年からは、是非とも棄権なぞなさらず学会活動に寄与いただける方への投票をお願いいたします。(文責桜間)

## 平成2年度役員

会 長	三浦武雄	
副 会 長	戸田 巖	石田晴久
先 任 理 事	市川照久	上村 務 上林弥彦
	竹井大輔	千葉常世 苗村憲司
	益田隆司	横井俊夫
後 任 理 事	伊藤貴康	木村幸男 杉山元伸
	春原 猛	田中穂積 名取 亮
	西 和彦	発田 弘 山本晃司
監 事	渡部 和	安井敏雄
支 部 長	津田孝夫 (関西), 伊藤貴康 (東北)	
	吉田 将 (九州), 杉江 昇 (中部)	
	新保 勝 (北海道), 中田高義 (中国)	
	相原恒博 (四国)	

## (アプリケーション分野)

伊藤 潔	松方 純	秋山義博
安達 淳	大野徹夫	金子俊一
川添良幸	斉藤美邦	杉本重雄
杉山健司	高澤嘉光	高橋成夫
田中哲男	富井規雄	富安信一郎
中野 潔	沼尾雅之	橋本 慎
馬場 健	広瀬 正	星野 寛
松田茂広	宮崎収兄	宮本義昭
横矢直和	吉村 猛	

## 文献ニュース小委員会

委 員 長	久世和資
副 委 員 長	高澤嘉光
委 員	印藤清志 大森 匡 小川瑞史
	小野寺民也

## *地方委員

小原 永	北村啓子	越村三幸
小林 隆	阪本利昭	白井靖人
鈴木謙二	垂水浩幸	土田賢省
鳥谷憲司	長尾 確	野尻 徹
幅田伸一	藤本久志	本多弘樹
松本一則	松本一教	森川博之
矢澤利弘	山口義一	山下義行
横田治夫	吉田 実	李 相喆
渡部卓雄	*上原邦昭	*炭田昌人
*乃万 司		

## 学会誌編集委員会

委 員 長	苗村憲司
副 委 員 長	春原 猛 発田 弘
委 員	(基礎・理論分野)
	田中二郎 熊沢逸夫 岩野和生
	上田和紀 宇田川佳久 太田和夫
	篠原 武 篠原靖志 田村直良
	徳永健伸 永井義裕 長尾 確
	西野哲朗 新田克己 野寺 隆
	平川秀樹 古谷立美 堀 浩一
	宮本定明 室田一雄 山本富士男
	渡辺俊典
	(ソフトウェア分野)
	大筆 豊 中川正樹 市吉伸行
	内平直志 岡田康治 落水浩一郎
	小野 諭 川越恭二 上林憲行
	久世和資 坂下善彦 佐渡一広
	田胡和哉 遠山元道 日野克重
	福岡和彦 松田裕幸 山口和紀
	吉田和幸 和田耕一
	(ハードウェア分野)
	馬場敬信 後藤厚宏 天野英晴
	板野肯三 今井正治 笠原博徳
	河井 淳 北沢寛徳 久門耕一
	黒川恭一 斎藤光男 榊 博史
	笹尾 勤 清水茂則 白男川幸郎
	土肥康孝 長井光晴 中田登志之
	仲林 清 原田武之助 藤田昌宏
	山口喜教 山田輝彦 米田友洋

## 論文誌編集委員会

委 員 長	益田隆司
副 委 員 長	名取 亮
委 員	石畑 清 魚田勝臣 浮田輝彦
	大田友一 小池誠彦 小谷善行
	佐藤興二 島津 明 戸川隼人
	徳田雄洋 永田守男 原田紀夫
	松田晃一 三浦孝夫 毛利友治
	吉澤康文

## 欧文誌編集委員会

前 委 員 長	堂下修司
委 員 長	上村 務
副 委 員 長	伊藤貴康
委 員	浅野正一郎 鶴飼正二 奥乃 博
*アドバイザー・テクニカル・ライティング	喜連川優 紀 一誠 黒須正明
	清水謙多郎 白井英俊 築山俊史
	西関隆夫 浜田穂積 伏見信也
	牧野武則 松村一夫 安村通晃
	山本 彰 米崎直樹

*J. C. バーストン *M. J. マクドナルド

*C. L. コリンズ

# 情報処理学会機関誌原稿執筆案内

* 1984 年 12 月改訂  
1986 年 12 月改訂  
1988 年 3 月改訂  
1988 年 12 月改訂  
1990 年 3 月改訂  
1991 年 3 月改訂

本学会は学会誌「情報処理」、論文誌「情報処理学会論文誌」、および欧文誌 JIP「Journal of INFORMATION PROCESSING」の 3 種類の機関誌を発行している。学会誌「情報処理」は新しい技術動向をはじめとする種々の情報を掲載し、会員の知識の向上をはかるものであり、論文誌と欧文誌は、会員の研究発表の場である。本案内は学会機関誌の原稿執筆要領をまとめたものである。執筆上の手引きとして利用していただきたい。

## 1. 学会誌「情報処理」原稿執筆案内

### 1.1 学会誌の目的

学会誌「情報処理」は

- (1) 会員の知識の向上に資すること、
- (2) 本学会の活動を報告し、会員各位の学会活動への参画意識を高めていただくこと、
- (3) 会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供すること、
- (4) 広く学会ニュース、各種情報の要約等を提供すること、

を目的としている。

とくに(1)の目的のために、つぎの方針で編集を行う。

- (a) 学会誌としてのレベル、および客観性を保ちながら、思い切り読みやすく分かりやすい記述を追求する。
- (b) 先進的分野、または特定分野の横断的な解説記事を企画し、対象となる読者層を明らかにして編集を行う。
- (c) 時宜にあった会員に興味のあるテーマをよりタイムリに掲載する。

### 1.2 記事種目

学会誌「情報処理」には前項の目的を達成するため、第 1 表に示す記事種目を設けている。

記事種目には、学会誌編集委員会が依頼する依頼記事と 1.4 項に掲げた寄稿記事がある。

### 1.3 特集号

分野を選び、その分野での新しい技術の動向を集中的に解説、展望した特集記事を掲載する。

### 1.4 寄稿、提案のお願い

1.2 項の各種目に対する会員各位の積極的な寄稿、

または取りあげるべきテーマの提案をお願いする。特に(8)技術報告、(9)論説、(10)寄書、(11)会員の声、(12)談話室、(13)海外だよりへの活発な寄稿をお願いしたい。

### 1.5 寄稿、提案の手続

- (1) 寄稿、提案者は原則として本学会員に限る。
- (2) 寄稿に使用する原稿用紙
  - ① 原稿を手書きする場合は、本会所定の原稿用紙を本会事務局で購入すること。
  - ② 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4判の用紙を使用し、字詰は 22 字×44 行にすること。
- (3) 寄稿、提案の種目(第 1 表参照)を明記すること。提案の場合は提案の趣旨を書き添えること。執筆候補者名を付記してもよい。
- (4) 寄稿する原稿の体裁と書き方は、1.9 を参考とした書き方にしていただきたい。ただし梗概は不要である。
- (5) 原稿用紙の購入先、原稿、提案の送付先、および問合せ先は次のとおりである。  
(〒 106) 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル  
(社)情報処理学会 編集係 (電話)(03) 3505-0505  
(FAX)(03) 3584-7925

### 1.6 寄稿原稿、提案の取扱い

- (1) 寄稿原稿は学会誌編集委員会で査読し、著者に照会して修正をしていただく場合がある。
- (2) 寄稿、提案内容の採否については学会誌編集委員会が判断する。

### 1.7 依頼手続

- (1) 依頼記事については、学会誌編集委員会が依

頼原稿の種目ごとに標題などを決定し執筆を依頼する。依頼ページ数はそのとき指定する。

- (2) 依頼した著者から承諾の返事があり、手書き原稿用紙が必要な場合には、これを送付する。
- (3) 依頼趣旨にそって執筆をしていただくため、執筆構想（目次案）ができた段階で著者と協議することがある。
- (4) 目次案、原稿の送付先、および問合せ先は

1.5 (5) 項と同じである。

## 1.8 依頼原稿の取扱い

依頼原稿は学会誌編集委員会で査読し、著者に照会して修正していただく場合がある。

## 1.9 原稿の体裁と書き方

原稿は、次の①～⑧をこの順に整える。各々別用紙に、必ず用紙を改めて書くこと。（①～⑧でオリジナル原稿一式とする）。

- ① 標 題：できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。
- ② 著者名・所属：氏名、所属を日英両文で書く。所属は、大学・学部・学科のように3項目で表記する。また、会員・非会員の別、著者連絡先（住所、電話番号、内線等。複数著者の場合は連絡担当者に＊印を付すこと）を用紙の下部に明記すること。
- ③ 本 文：不必要に長い記述を避け、要点を有効に伝えるように書くことが望ましい。結果を示す数式には文章による解釈を付記した方が読者には理解しやすい。
- ④ 謝 辞：謝辞もできるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。
- ⑤ 参考文献：内容に直接関係のある重要な文献には必ず言及すること。これら文献に関連のある本文中の箇所には、右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する。（1.10 参照）
- ⑥ 付 録：長い数式の誘導の過程や、実験装置、計算機についての説明などの詳細が必要な場合、これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので、付録にする方がよい。
- ⑦ 図（1.10 参照） ⑧ 表（1.10 参照）

## 1.10 原稿執筆上の一般的注意事項

- (1) 文体はひらがなまじり国語文章体とし、常用漢字、新かなづかいを用いる。

(2) 専門用語については、簡単な用語説明を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(3) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にする。次の例を参照にされたい。

- 4) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol. 1, No. 1, pp. 6-10 (1960).
- 5) Feldman, J. and Gries, D.: *Translator Writing System*, Comm. ACM, Vol. 11, No. 2, pp. 77-113 (1968).
- 7) 大山一夫：電子計算機，p. 300, 情報出版，東京 (1981).
- 8) Wilkes, M. V.: *Time Sharing Computer Systems*, p. 200, McDonald, New York (1990).

(4) 図（モノクロ写真およびカラー写真を含む）および表には、図-1 および 表-1 のような通し番号と名称を和文または英文でつける。

図は、刷上り寸法の2～3倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。図は本学会でトレースするので、鉛筆書きでもよいが、トレースしにくい青焼きのままの図は避けていただきたい。

図、表のでき上り寸法と行数の換算は次のとおりである。

寸 法 (mm)	換算行数	手書き原稿相当枚数
A. 50× 34	6 行	0.5 枚
B. 67× 50	13 行	1 枚
C. 100× 67	26 行	2 枚
D. 134×100	39 行	3.5 枚

(5) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき・下つきの別、×（かける）とX（エックス）の別など。

(6) 句読点は“.” および“,”を用い、それぞれ1画（1字分）を用いる。

(7) 数式は印刷に便利よう注意する。文中に式を挿入する場合には  $a/b$ ,  $\exp(t/r)$  のような記法を用いる。

独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,” または“.”を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。

- (8) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。
- (9) 原稿中にあとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にしるし、かつ挿入する箇所を∨または∧（朱書）で示す。
- (10) 脚注は、☆, ☆☆, ☆☆☆などの記号で示し、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。
- (11) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に～を朱書し、イタリック体（斜体）使用の場合はその文字の下に朱書でーと指定する。
- (12) 用語は原則として「情報処理用語標準対訳」

による。

1.11 そ の 他

- (1) コピー：郵送中の紛失事故対策や照会の便宜などのため、原稿のコピーは必ず手元にとっておいていただきたい。
- (2) 正誤：著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。
- (3) 著者紹介：必要な場合には原稿用紙1枚以内の著者紹介と写真一葉を依頼する。
- (4) 別刷：著者は原稿校正時に別刷を注文することができる。その料金は別途定める。
- (5) 原稿料：依頼原稿の原稿料は別途定める。

第 1 表 学会誌「情報処理」の記事種目

記 事 種 目	内 容	依頼記事	寄稿記事	刷 上 り 標 準 ページ数	総字数	手 書 き 原稿枚数	標 題	著者名 所 属
(1) 解 説	新しい技術の動向などについて一般の会員を対象として平易に解説したもの	○		8	15,500	50	和文および英文	和文および英文
(2) 講 座	定説となっている基礎的な問題について平易に系統的に解説したもの	○		10	19,400	62	"	"
(3) 展 望	新しい理論、技術などの展望を比較的専門の立場から論説したもの	○		8	15,500	50	"	"
(4) 報 告	総合的なプロジェクトや国内外の会議などの成果報告	○		6	11,600	37	"	"
(5) 講 演	本学会が主催した講演の要旨	○		6	11,600	37	"	"
(6) 座 談 会	学会誌編集委員会が企画した座談会の要約	○		8	15,500	50	"	"
(7) 巻 頭 言	本学会の会長や理事などの抱負、所感	○		1	1,900	6.2	和 文	和 文
(8) 技 術 報 告	会員が広く関心をもつ研究、開発などの報告	○	○	4	7,700	25	和文および英文	和文および英文
(9) 論 説	社会的な視野からみた情報処理に関する論説や主張		○	4	7,700	25	"	"
(10) 寄 書	情報処理に関する理論、技術、動向など会員が関心を持つ事項の論説や主張		○	4	7,700	25	"	"
(11) 会 員 の 声	本学会の活動および学会誌に対する会員からの意見		○	0.5	1,000	3	和文または英文	和文または英文
(12) 談 話 室	経験談、提案、批判、誌上討論など		○	2~4	3,900~7,700	12.5~25	"	"
(13) 海 外 だ よ り	在外者からの外国での研究状況などの報告		○	2	3,900	12.5	"	"
(14) 研 究 室 紹 介	大学、研究所などの研究活動の紹介		○	3	5,800	19	"	"
(15) 書 献 翻 訳	文献ニュース小委員会が選定した図書を紹介および批評	○		1	1,900	6	"	"
(16) 文 献 翻 訳	" 海外文献の翻訳	○		8	15,500	50	"	"
(17) 文 献 紹 介	" 海外文献の概要紹介	○		1	1,900	6	"	"
(18) ニ ュ ー ス	" ニュース	○		0.5	1,000	3	"	"
(19) 欧文誌 アブストラクト	欧文誌に掲載された論文、ショートノートの和文アブストラクト	○		0.5	1,000	3	和文および英文	和文および英文
(20) 論 文 誌 梗 概	論文誌に掲載された論文、ショートノートの梗概	○		0.5	1,000	3	和 文	和 文
(21) 研 究 会 報 告	各研究会、研究委員会の報告	○		3	5,800	19	和文または英文	和文または英文
(22) 情報規格調査会報告	情報規格調査会の活動報告	○		32	62,000	198	和 文	和 文
(23) 情報技術標準化の ページ	情報技術に関する国際標準化の進展状況報告			1	1,900	6	英 文	和文および英文
(24) 国際活動のページ	国際活動に関する国内外の活動状況の報告	○		1	1,900	6	和文または英文	和文または英文
(25) 会 議 案 内	関連国内外の会議の予告、カレンダー、論文募集など			0.5	1,000	3	"	"
(26) 本 会 記 事	理事会、各種委員会の報告、大会、総会、支部だよりなど			1	1,900	6	和 文	和 文
(27) 会 告	学会からのお知らせ、行事案内						"	"
(28) 事 務 局 だ よ り				0.5	1,000	3	"	"

* タイトル、図表などすべてを含めた原稿用紙の枚数  
 ワープロ原稿用紙 (22 字×44 行=968 字)  
 手書き原稿用紙 (24 字×13 行=312 字)

## 2.「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内

### 2.1 論文誌の目的

論文誌は会員に研究発表の場を提供し、論文を掲載するとともに、関連する討論、技術展望などを通じて学会の発展に資することを期して刊行される。

### 2.2 論文誌の記事種目

- (1) 投稿記事：会員が自発的に執筆するもので、第1表に示す三つの種目((1)～(3))がある。この表での原稿枚数は一応の目安であり、特に必要な場合には超過することも認められる。ただし、どの種目でも冗長とならないよう十分に留意すること。
- (2) 依頼原稿：依頼により会員その他の方々に執筆していただくもので、新しい技術動向に関する展望など。(特集記事に関連するものなど。)
- (3) 欧文誌掲載論文の要約：欧文誌 JIP の採録論文の和文要約、長さは論文誌 1 ページ分とする。(掲載料等は徴収しない。別刷は作成しない。)

### 2.3 投稿手続

- (1) 投稿者は原則として本会員に限る。寄稿者が2名以上の連名の場合には、そのうちの少なくとも1名は本会員であることが必要である。
- (2) 投稿論文は、各々自己完結したものとして取り扱う。したがって、同一著者による連続論文の投稿、ならびに採用の決定していない論文の相互参照は認めない。
- (3) 投稿に使用する原稿用紙
  - ① 原稿を手書きする場合は、本会所定の原稿用紙を本会事務局で購入すること。
  - ② 原稿をワープロ等で作成する場合は、B5判の用紙を使用し、字詰は24字×26行にすること。

- (4) 原稿用紙の購入先、原稿の送付先および問合せ先は、いずれも次のとおりである。

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 論文誌係 (電話) 03-505-0505

### 2.4 依頼原稿の寄稿手続

- (1) 論文誌編集委員会が標題などを決定し、執筆を依頼する。依頼ページ数はそのとき指定する。
- (2) 依頼した著者から承諾の返事があり、手書き原稿用紙が必要な場合には、これを送付する。
- (3) 原稿の送付先および問合せ先は前項と同じ。
- (4) 英文 150 語以内の Abstract の添付を依頼することがある。

### 2.5 原稿の体裁と書き方

原稿は、次の①～⑩をこの順に整える。各々別用紙に、書くこと。(①～⑩でオリジナル原稿一式とする。)

- ① 標 題：できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。
- ② 著者名・所属：氏名、所属を日英両文で書く。所属は、大学・学部・学科のように3項目で表記する。また、会員・非会員の別(会員の場合は会員番号も)、著者連絡先(住所、電話番号、内線等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと)を用紙の下部に明記すること。
- ③ 梗 概：論文の要約を600字(ショートノートは300字)以内にまとめて書く。著者の目的、理由、行った事柄、結論などを、内容が容易に理解できるように記述する。
- ④ 本 文：はじめに、本論、おわりにの順とする。はじめには、研究分野においてその論文が占める位置や歴史的背景を述べることを目的とす

第1表 論文誌の寄稿記事種目

種 目	内 容	刷 上 り 標 準 ペ ー ジ 数	ワープロ 原稿枚数	手 書 き 原稿枚数
(1) 論 文	学術、技術上の研究・開発成果の記述であり、独創性、新規性、有用性などの点から会員にとって価値のあるもの。	8	24	48
(2) ショートノート	新しい研究・開発成果の速報、または小論文。	3	9	18
(3) 誌 上 討 論	掲載論文、ショートノートに対する質問、回答、その他の意見、提案など。	2	6	12
(4) 欧 文 誌 要 約	欧文誌に掲載された論文、ショートノートの和文要約	1	3	6

* タイトルや図表などすべてを含めた原稿用紙の枚数  
 ワープロ原稿用紙 (24 字×26 行=624 字)  
 手書き原稿用紙 (24 字×13 行=312 字)

る。したがって、従来の研究との関係、本研究の特徴などを明瞭に述べることが必要である。

本論は、不必要に長い記述を避け、要点を有効に伝えるように書くことが望ましい。結果を示す数式には文章による解釈を付記した方が読者には理解しやすい。

おわりには、研究結果を検討し、研究目標に対しどこまで到達できたか、またはなし得なかったか、などについて簡単に記述する。

- ⑤ 謝 辞：謝辞もできるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。
- ⑥ 参考文献：研究内容に直接関係のある重要な文献には必ず言及すること。これら文献に関連のある本文中の箇所には、右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する。（2.7 参照）
- ⑦ 付 録：長い数式の誘導の過程や、実験装置、計算機についての説明などの詳細が必要な場合、これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので、付録にする方がよい。
- ⑧ 図（2.7 参照） ⑨ 表（2.7 参照）
- ⑩ 英文アブストラクト：欧文誌に掲載するため、英文によるアブストラクトを150語以内で書く（用紙はA4タイプ用紙でも可）。別用紙に、英文による標題、著者名、所属を記入して添付する。
- ⑪ キーワード・チェックリスト：情報処理学会所定のもの。

2.6 投稿原稿の整え方

原稿を投稿する際は、次の(A)～(C)を必要とする。不足がある場合は受け付けない。

- (A) オリジナル原稿一式（①～⑪）
- (B) (A)のコピー2部（但し査読用として、②著者・所属、⑤謝辞および⑪キーワード・チェックリストを除いたもの）。
- (C) ①標題、②著者・所属、③梗概、⑤謝辞、⑪キーワード・チェックリストそれぞれのコピー1部。

2.7 原稿執筆上の一般的注意事項

- (1) 文体はひらがなまじり口語文章体とし、常用漢字、新かなづかいを用いる。
- (2) 専門用語については、簡単な用語説明を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

- (3) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にするす。次の例を参照にされたい。

- 4) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法, 情報処理, Vol. 1, No. 1, pp. 6～10 (1960).
- 5) Feldman, J. and Gries, D.: *Translator Writing System*, Comm. ACM, Vol. 11, No. 2, pp. 77-113 (1968).
- 7) 大山一夫：電子計算機, p. 300, 情報出版, 東京 (1981).
- 8) Wilkes, M. V.: *Time Sharing Computer Systems*, p. 200, McDonald, New York (1978).

- (4) 図（モノクロ写真およびカラー写真を含む）  
および表には、図1および表1のような通し番号と名称を和文と英文でつける。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるよう配慮する。

図は著者の作成したものを、そのまま印刷するので、下記要領により、黒インキで浄書（トレース）すること。①刷り寸法の2倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。②図を入れる場所は、原稿用紙の欄外に明記すること。③表はできる限り簡潔に作成し、長い表は、途中を省略するか、あるいは、直接製版できる原稿にする。

なお、著者自身で上記にそったトレースができない場合には、寄稿時にその旨を図面原稿に指示すること。この場合には、有料にてトレースする。

図、表のでき上り寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

寸 法 (mm)	ワープロ行数 (24字×26行)	手書き原稿相当枚数
A. 50×34	6 行	0.5 枚
B. 67×50	13 行	1 枚
C. 100×67	26 行	2 枚
D. 134×100	39 行	3.5 枚

- (5) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき・下つきの別、×（かける）とX（エックス）の別など。
- (6) 句読点は“.” および“,” を使い、それぞれ1画（1字分）を用いる。

- (7) 数式は印刷に便利なよう注意する。文中に式を挿入する場合には  $a/b$ ,  $\exp(t/r)$  のような記法を用いる。

独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,” または“.” を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。

- (8) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。
- (9) 原稿中にあとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にし、かつ挿入する箇所を $\vee$ または $\wedge$  (朱書) で示す。
- (10) 脚注は、*, **, *** などの記号で示し、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。
- (11) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に $\sim$ を朱書し、イタリック体 (斜体) 使用の場合はその文字の下に朱書きで $\sim$ と指定する。

## 2.8 投稿原稿の取扱い

- (1) 2.6 投稿原稿の整え方に示した書類がすべて整えられて投稿されたときは、受付日と受付番号を付して原稿受領書を発行する。投稿論文について問合せ等は以後この受付番号によること。
- (2) 投稿原稿は、査読委員の審査結果に基づき論文誌編集委員会で次のいずれかに決定する。
- (a) 採録とする。
- (b) 著者に照会して回答または修正などを求めたうえ、改めて審査を行い採否を決定する。
- (c) 不採録とする。
- (3) 委員会後、採否の決定通知を著者に送付する。
- (4) 採録の決定した論文、ショートノートは、委員会翌月の学会誌 (本会記事のページ) 上に発表する。また、論文誌上に掲載する際には、末尾に原稿受付日および採録決定日を記録する。
- (5) 照会は、論旨不明な点の修正、明らかな誤りの訂正、難解もしくは冗長な記述の書きかえなどを求めることに主眼をおいて行われる。

ただし、照会回数は原則として1回以内とする。

- (a) 照会期間は3カ月とし、3カ月以上経って著者より連絡がない場合には取り下げたものとして処理する。(ご注意願います。)

- (b) 手書き原稿が大幅修正となる場合には、査読委員の査読効率を考慮して読みやすい形に書き直すこと。

- (6) 不採録に決定した原稿は、不採録とした理由を付して著者に返却する。

- (7) 投稿論文は次のいずれかの場合には不採録とする。

- (a) 本学会の論文として不適当な分野の内容である場合。
- (b) 既発表または公知のものから容易に類推されると考えられる場合 (注)。
- (c) 本質的な誤りがあるか、あるいは客観的に認知できない内容が含まれる場合。
- (d) 内容の程度が低く、会員の参考にならないと判断された場合。
- (e) 照会によって本学会の論文にふさわしい程度に改良される見込みがないと判断された場合。

注) 既発表、公知の範囲の規準について

本学会受付前に下記の規準の公開刊行物に投稿された論文は既発表とみなし、原則として採録不可能なものとする。

- (1) 定期刊行物: 学会誌, 商業誌, 各種機関誌, 月刊, 季刊等, 査読の有無を問わない。  
大学 Bulletin は定期刊行物に含める。
- (2) 査読を行う会議録: 学会大会, 研究会, 国際会議, 例えば IFIP 等。
- (3) 前項(1), (2)に該当する場合でも, 新しい内容が付け加えられたものは, 既発表とみなさない。
- (4) ショートノートをもとに発展, 充実させたものは既発表とはみなさない。
- (5) 本学会の全国大会, 研究発表会, シンポジウムで発表された内容は既発表とはみなさない。
- 既発表論文と内容重複のある論文については, 読者にとっての有益性を勘案して採否を決定する。

## 2.9 掲載決定通知, 別刷等

- (1) 掲載決定通知: 採録の決定した論文等に関しては, 掲載号が決まった時点で掲載決定通知を送付する。
- (2) 校正: 著者に校正刷りを送り, 誤植の防止に万全を期するが, 校正のさいに, 原稿および原

- 図面を訂正することは認めない。
- (3) 正 誤：著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する（事情により有料とする）。
- (4) 著者紹介：必要な場合には所定の原稿用紙 1 枚以内の著者紹介と写真 1 葉を依頼する。
- (5) 別 刷：論文誌に掲載される投稿論文等については、100 部以上の別刷を買い取っていただく。価格は別表による。著者校正の際、別刷申込み書を同封するので、必要部数価格等を明記して校正ゲラとともに返送すること。

論 文 誌 別 刷 価 格 表 (単位：円)

ページ数 部数	1	2	3	4	5	6	7	8
100	7,000	14,000	21,000	28,000	35,000	42,000	63,000	84,000
200	8,000	15,000	22,000	29,000	36,500	43,500	64,500	85,500
300	9,000	16,000	23,000	30,000	38,000	45,000	66,500	87,500
400	10,000	17,000	24,000	31,000	39,500	46,500	68,500	89,500
500	11,000	18,000	25,000	32,000	41,000	48,000	70,500	91,500

なお、8 ページを超えるときは 100 部の場合で 1 ページにつき 21,000 円加算する。カラー写真については、1 カラー頁当たり、4 通常頁分と換算する。

# キーワード（論文誌投稿用）

〔寄稿者用〕

（Ⅰ）あなたが寄稿する原稿の内容に最も関係の深い項目（１つ）に◎印，関係する項目（複数個も可）に○印を付けてください。

大 項 目	中 項 目	小 項 目 ( ) 内は該当項目のないときに分野名を記入
00 情報科学一般	一般 社会 教育	哲学 歴史 伝記 ( ) 規格 標準化 知的所有権 社会問題 ( ) 情報科学・工学の教育 カリキュラム コンピュータリテラシ CAI 教育工学 ( )
01 基礎理論及び 基礎技術	情報数学  情報理論及び OR  データ解析 数値計算  シミュレーション	形式論理 オートマトン理論 形式言語理論 計算可能性の理論 計算の複雑さ アルゴリズム論 グラフ理論 組合せ理論 ファジィ理論 符号理論 整数論 ( ) 情報理論 線形・非線形計画法 動的計画法 整数計画法 ゲーム理論 待ち行列理論 ( ) 推定・検定 確率モデル 統計・確率計算 多変量解析 ( ) 誤差解析 関数近似 補間 線形計算 非線形方程式 数値微積分 常微分方程式 偏微分方程式 積分方程式 極値問題 最適化 特殊関数 数式処理 乱数 ( ) 有限要素法 境界要素法 差分法 モンテカルロ法 ( )
02 人工知能及び 認知科学	基礎理論  人工知能システム  自然言語処理  パターン認識  生体情報処理 感性情報処理	探索 定理自動証明 推論方式 知識表現 知識獲得 非単調論理 学習理論 コネクショニズム ( ) エキスパートシステム ガイダンスシステム エキスパートシステム作成支援ツール ゲームプログラム 演繹データベース 知能ロボット ( ) 機械翻訳 自然言語インタフェース 対話システム 形態素解析 構文解析 意味解析 文生成 談話理解 文法 辞書 ( ) 音声認識 話者識別 画像理解 物体認識 文字認識 リモートセンシング ( ) 視覚 聴覚 神経モデル ニューラルネットワーク ( ) 心理モデル 行動モデル 感情モデル ( )
03 データ処理	音声処理 画像・図形処理  テキスト処理  マルチメディア処理	音声分析 音声合成 ( ) 画質改善 帯域圧縮 符号化 曲面合成 トモグラフィ 3次元処理 グラフィックス アニメーション ( ) ワードプロセッシング 日本語入出力 文書処理 卓上出版 フォントデザイン ( ) ( )
04 ソフトウェア	基礎理論  プログラム言語及び 仕様記述言語  言語処理系 ツール  オペレーティング システム  データベース・情報 検索  プログラミング技術	プログラム理論 オペレーティングシステム理論 データベース理論 形式的意味論 算法論理 検証理論 カテゴリ理論 属性文法 計算パラダイム プログラム合成・変換 ( ) 手続き型言語 論理型言語 関数型言語 オブジェクト指向言語 並列処理言語 システム記述言語 数式処理言語 シミュレーション言語 仕様記述言語 ( ) 構文解析 コード生成 最適化 コンパイラ インタプリタ ( ) エディタ デバッガ ベリファイヤ コンパイラジェネレータ ウィンドウシステム ( ) 記憶管理 入出力管理 障害管理 通信管理 ファイル管理 ジョブ・タスク管理 自動運転管理 並列分散処理 例外処理 性能評価 ( ) データモデル データ言語 データベース設計 質問処理 トランザクション処理 一貫性制約 ファイル構成 検索方式 分散データベース マルチメディアデータベース ( ) データ構造 ガーベッジコレクション ハッシング ソーティング サーチング ( )

大 項 目	中 項 目	小 項 目 ( ) 内は該当項目のないときに分野名を記入
05 ソフトウェア工学	開発技術	設計理論 要求分析法 仕様記述法 プログラミング方法論 プロトタイピング 部品化・再利用技術 プログラム自動構成 ( )
	テスト・保守	プログラムのテスト・デバッグ プログラム検証 性能評価 プログラム解析 保守運用管理 ( )
	ソフトウェアプロセス	プロセスモデル プロセスプログラミング 工程管理 ( )
	開発環境	構成理論 分散開発環境 文書化支援 ( )
	ヒューマンファクタ	マン・マシンインタフェース 要員教育 プロジェクト管理 プログラミング行動 ( )
06 ハードウェア	基礎理論	組合せ回路理論 順序回路理論 論理設計理論 レイアウトアルゴリズム ハードウェアアルゴリズム ( )
	論理回路	記憶回路 演算回路 制御回路 誤り検出・訂正回路 テスト容易化回路 ( )
	デバイス アーキテクチャ	論理デバイス 記憶デバイス 入出力デバイス ASIC PLD ( ) 汎用計算機 専用計算機 スーパーコンピュータ ワークステーション 高級言語マシン 非ノイマンアーキテクチャ 並列アーキテクチャ マイクロプログラム フォールトトレランス ( )
	周辺・端末	外部記憶 ディスプレイ装置 ハードコピー装置 文字読取装置 図形入出力装置 音声入出力装置 ( )
	設計技術及び設計自動化	方式設計 機能設計 論理設計 レイアウト設計 テスト生成 設計記述言語 シリコンコンパイラ ( )
	開発環境	統合化ツール 設計環境 設計データベース ( )
	テスト・検証	LSI テスト ハードウェア設計検証 性能評価 ( )
07 ネットワーク	通信技術	データ交換方式 通信方式 画像通信 トラヒック理論 ネットワークアーキテクチャ プロトコル プロトコル検証 ( )
	ネットワーク管理 コンピュータネットワーク	名前管理 経路管理 障害管理 ( ) WAN LAN 電子会議 電子掲示板 電子メール 分散処理 ( )
08 システム	対話型システム	構成理論 方法論 CAE CAD CAM CIM CAI 管制システム 訓練システム 意志決定システム オフィスシステム ( )
	オンラインシステム	予約システム バンキングシステム ( )
	制御システム	プロセス制御 数値制御 通信制御 産業用ロボット FA ( )
	システム評価	評価技法 評価指標 評価モデル ( )
09 信頼性と安全性	信頼性	信頼性理論 保全性理論 信頼性評価 故障解析 ( )
	機密保護	暗号理論 認証 鍵管理 鍵配送 セキュリティ ( )
10 応用	企業等への応用	オフィス 行政 経営 金融 情報サービス 生産管理 計算機センタ運営 教育 ( )
	工学等への応用	航空・宇宙 機械 土木 建築 都市 電気・電子 計測 生物 物理 化学 原子力 輸送・交通 医学・歯学 ( )
	芸術等への応用	音楽 絵画 商業デザイン ( )
	その他への応用	自然科学 ( ) 社会科学 ( ) 人文科学 ( ) 障害者補助 ( )
11 その他 ( )		

(II) キーワード表にとらわれず、寄稿内容を表すキーワードを書いてください。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

情報処理学会 原稿チェックリスト (太枠内著者記入)

受 付 番 号		希 望 掲 載 欄		査 読 者			
和文 標 題						原 稿 枚	
英文 標 題						図 枚	
						表 枚	
						アブストラクト 枚	
項目	検 討 内 容 (適切であると認められれば○印, そうでないとき×印. 投稿者は著者) の欄に自分の判定結果を記入すること					著者	
						査 読 結 果	
						第 1 回 第 2 回 第 3 回	
標 題 抄 録 等	掲載欄は著者の指定通りでよいか						
	第 3 者 (著者以外の人) が目を通していいか					(事務局)	
	和文標題は内容を適切に表わしているか						
	英文標題は内容を適切に表現し, 英語としても適切か						
	アブストラクトは主旨を適切に表現し, 英文も適切か						
本 文	在来研究との関連, 研究の動機, ねらい等が明確に説明されているか						
	既発表の論文等との間に重複はないか						
	章, 節のたて方, 全体の構成等は適切か						
	説明に冗長な点, 逆に簡単すぎる点はないか						
	説明に飛躍した点はないか仮定等の説明は十分か						
	記号・略号等は周知のものか用語は適切か						
	図・表の説明は適当か (本文中および各図のキャプション)						
	科学技術論文として不適当な表現や, 判りにくい表現はないか						
図 表	結論が明確に記されており, 範囲, 限界, 問題点などの指摘が適切で, 内容にそったものであるか						
	図表自体は十分に明解であるか, 誤りはないか						
	十分に鮮明か					(事務局)	
文 献	大きさ, 縮尺の指定は適切か					(事務局)	
	適切な文献が引用されており, その数も適切か						
総 合 評 価	創意の程度 (最高を 5 としたら 5 段階評価)						
	資料価値, 読者にとって有益な情報の量 (最高を 5 とした 5 段階評価)						
	興味をもつ読者の多少 (非常に多い場合 5, ほとんどないとき 1)						
	原稿の取り扱い (このまま掲載 = 3 照会后判定 = 2 不採録 = 1)						
査 読 歴	回 数	第 1 回		第 2 回		第 3 回	
	依 頼	年 月 日	原稿 枚	年 月 日	原稿 枚	年 月 日	原稿 枚
	期 日	年 月 日	図 枚	年 月 日	図 枚	年 月 日	図 枚
	返 着	年 月 日	表 枚	年 月 日	表 枚	年 月 日	表 枚
連 絡 事 項	第 1 回		第 2 回		第 3 回		

### 3. 欧文誌「JIP」原稿執筆案内

概要のみを記す。詳細は欧文誌に随時掲載される著者への投稿案内(英文)を参照のこと。

#### 3.1 欧文誌の性格、掲載論文種別

JIP は英文による学術雑誌である。掲載論文等は(1)原著論文、(2)ショートノート、(3)解説、(4)学会出版物のアブストラクト、(5)その他、とする。

(1)と(2)を募集する。

#### 3.2 投稿方法

(1) 原稿は4部提出する。原著論文は刷り上がり8ページ以内を一応の目安とする。ショートノートは2ページ以内に限る。

(2) 図面は原則として原本を提出する。

(3) 著者紹介(英文)および写真を添付すること。

(4) アブストラクトは3種必要である。すなわち

(a)論文冒頭に掲げる英文アブストラクト(原著論文では200語以内、ショートノートでは50語以内)。

(b)前項の和訳、和文表題を含める。「情報処理」に掲載される。

(c)刷り上がり1ページ(標題、著者名などを含めて)の和文要約。図、表等を含んでよい。情報処理学会論文誌に掲載される。ただしショートノートの場合は刷り上がり0.5ページとする。それだけを見れば論文の性格はわかり、読者に読んでみたいという気を起こさせるようなものであることが望ましい。

なお著者が日本人でない場合には(b)を省略し、

(c)は英語版を提出することにしてもよい。その場合は編集委員会で必要な翻訳をおこなう。

(5) 査読割り当ての便宜のため、所定の質問表に回答を記入して添付すること。

(6) 著者の所属、郵便送付先を明示した書状を添えること。日本語でも可。

(7) 原稿送付先は次のとおり。

(〒106) 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 欧文誌係 (電話)(03)505-0505

#### 3.3 原稿の形式

(1) A4判用紙(21cm×30cm)の片面にダブルスペースでタイプ打ちを原則とする。用紙寸法は8.5"×11"(レターサイズ)でもよい。たとえば1行65文字、1ページ28行とし、上下3cm(強)の

余白を残し、パラグラフの先頭を5字分あける。ただし印字品質が十分よくて読み違いの恐れがなく、査読者等が書き込みをするためのスペースが十分あり、かつ分量の計算が容易にできるようなものであれば、これ以外の形式(たとえばレーザービームプリンタの出力)であっても差し支えない。刷り上がり1ページは、通常のテキストでは1,000語程度であるが、図等があればその分のスペースを考慮すること。

(2) 3.2節(4)に記載のとおりのアブストラクトを含めること。

(3) 標題、著者名、および所属は別紙とする。共著の場合には、著者と所属の間の対応を明示すること。

(4) 引用文献リストは「JIP」形式による。くわしくは英文投稿規定または最近のJIPを参照のこと。

(5) 図のキャプションをまとめて別紙に示すこと。

(6) その他英文原稿作成の常識にしたがうこと。

#### 3.4 図面の形式

(1) 図は学会ではトレースができないので、鮮明で汚れがなく、コントラストのよいものを提出する。

(2) できればA4判の用紙等を用いる。レターサイズでもよい。

(3) グラフは座標軸のみとするか、主だった格子のみ示すこと。

(4) レタリングが小さくなりすぎないように注意する。

(5) 写真は光沢焼きとし、十分なコントラストと濃淡をもつ常識的な寸法のものとする。

(6) 図面原本には裏面に鉛筆で番号を振り、著者名を書いておくこと。

#### 3.5 査読

投稿原稿は内容及び英文に関して査読される。採否の最終的判断は編集委員会でおこなうが、内容についての最終的責任は著者にある。

#### 3.6 その他

(1) 投稿原稿は返却しない。

(2) 掲載論文等の著作権は学会に帰属する。

- (3) 著者または著者の所属先に、別刷 100 部を下  
記価格で購入していただく。
- (4) 1 ページの和文要約 (3.2 節(4)の c) につ  
いては掲載料等は徴収しない。ただし別刷は学会では

作成しない。

- (5) 論文掲載誌 10 部 (掲載論文 1 篇当たり) を  
著者の指定する海外の研究者等に著者の名義で寄贈  
する。

Pages	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Prices	¥ 5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

#### 4. 機関誌に掲載された論文等の著作権

##### 4.1 著作権の帰属

- (1) 機関誌に掲載された論文等 (以下論文等とい  
う) の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない  
場合は著者と本学会との間で協議の上措置する。  
なお特別な事情としては次のような例を想定  
する。
- 依頼論文等であって、その内容が著者個人でな  
く著者の所属する法人等に係るもので、著作権  
の本会への移転帰属に関し当該法人等の了解が  
得られない場合。
  - 特別講演記事などで著者の了解が得られない  
場合。

##### 4.2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果 および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著作  
者人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者  
自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用すること  
に対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨  
げることをしない。この場合著者は本学会に申し  
出を行い、また利用された複製物あるいは著作物  
中に出典を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製をおこなうことがで  
きる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を  
得る。

- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許  
諾要請があった場合、本学会は理事会において審  
議し、適当と認めたものについて要望に応ずること  
ができる。但しこの場合関係する著者にその旨  
了解を得る。

- (4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対  
価の支払があった場合には関係する著者に報告の  
上、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用  
する。

##### 4.3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当っては他人の著作権の侵害、名誉毀  
損、その他の問題を生じないように十分に配慮する  
こと。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することがで  
きる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害する  
などの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合  
著者がその責を負う。

## 定 期 刊 行 物 の 省 略 記 法

(ISO 4, ISO 833 による)

誌 名	省 略 記 法
ACLS Newsletter	<i>ACLS Newsl.</i>
ACM Transactions on Database Systems	<i>ACM Trans. Database Syst.</i>
ACM Transactions on Mathematical Software	<i>ACM Trans. Math. Softw.</i>
ACM Transactions on Programming Languages and Systems	<i>ACM Trans. Prog. Lang. Syst.</i>
Acta Informatica	<i>Acta Inf.</i>
AEDS Journal	<i>AEDS J.</i>
AEDS Monitor	<i>AEDS Monit.</i>
ALGOL Bulletin	<i>ALGOL Bull.</i>
American Journal of Computational Linguistics	<i>Am. J. Comput. Linguist.</i>
American Scientist	<i>Am. Sci.</i>
Annals	<i>Ann.</i>
The Annals of the American Academy of Political and Social Science	<i>Annals AAPSS</i>
Applied Mathematics and Computation	<i>Appl. Math. Comput.</i>
Artificial Intelligence	<i>Artif. Intell.</i>
Association for Literary and Linguistic Computing-Bulletin	<i>Assoc. Lit. Linguist. Comput. Bull.</i>
The Australian Computer Journal	<i>Aust. Comput. J.</i>
Bell System Technical Journal	<i>Bell Syst. Tech. J.</i>
bit	<i>bit</i>
Communications of the ACM	<i>Comm. ACM</i>
Computer	<i>Computer</i>
Computer Aided Design	<i>Comput. Aided Des.</i>
Computer Bulletin	<i>Comput. Bull.</i>
Computer Design	<i>Comput. Des.</i>
Computer Educator	<i>Comput. Educ.</i>
Computer Graphics and Art	<i>Comput. Gr. Art</i>
Computer Vision Graphics and Image Processing	<i>Comput. Gr. Image Process.</i>
Computer Graphics Newsletter	<i>Comput. Gr. Newsl.</i>
Computer Journal	<i>Comput. J.</i>
Computer Languages	<i>Comput. Lang.</i>
Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	<i>Comput. Methods Appl. Mech. Eng.</i>
Computers and Biomedical Research	<i>Comput. Biomed. Res.</i>
Computers & Graphics	<i>Comput. Gr.</i>
Computers and Humanities	<i>Comput. Hum.</i>
Computing	<i>Computing</i>
Computing Newsletter	<i>Comput. Newsl.</i>
Computing Surveys	<i>Comput. Surv.</i>
Datamation	<i>Datamation</i>
Education Technology	<i>Educ. Tech.</i>
Engineering and Instrumentation	<i>Eng. Instrum.</i>
IBM Journal of Research and Development	<i>IBM J. Res. Dev.</i>
IBM Systems Journal	<i>IBM Syst. J.</i>

誌	名	省 略 記 法
IEEE Spectrum		<i>IEEE Spectrum</i>
IEEE Transactions on Computers		<i>IEEE Trans. Comput.</i>
IEEE Transactions on Software Engineering		<i>IEEE Trans. Softw. Eng.</i>
Industrial Engineering		<i>Ind. Eng.</i>
Information and Control		<i>Inf. Control</i>
Information Processing and Management		<i>Inf. Process. Manage.</i>
Information Processing Letters		<i>Inf. Process. Lett.</i>
Information Science		<i>Inf. Sci.</i>
The Information Scientist		<i>The Inf. Sci.</i>
Information Systems		<i>Inf. Syst.</i>
Instrumentation Technology		<i>Instrum. Technol.</i>
International Journal of Bio-Medical Computing		<i>Int. J. Bio-Med. Comput.</i>
International Journal of Computer and Information Sciences		<i>Int. J. Comput. Inf. Sci.</i>
International Journal of Computer Mathematics		<i>Int. J. Comput. Math.</i>
International Journal of General Systems		<i>Int. J. General Syst.</i>
International Journal of Man-Machine Studies		<i>Int. J. Man-Mach. Stud.</i>
Journal of the ACM		<i>J. ACM</i>
Journal of the American Society for Information Sciences		<i>J. Am. Soc. Inf. Sci.</i>
Journal of the American Statistical Association		<i>J. Am. Stat. Assoc.</i>
Journal of Chemical Information & Computer Sciences		<i>J. Chem. Inf. Comput. Sci.</i>
Journal of Clinical Computing		<i>J. Clin. Comput.</i>
Journal of Computational Physics		<i>J. Comput. Phys</i>
Journal of Computer and System Sciences		<i>J. Comput. Syst. Sci.</i>
Journal of Cybernetics and Information Sciences		<i>J. Cybern. Inf. Sci.</i>
Journal of the Franklin Institute		<i>J. Franklin Inst.</i>
Journal of Symbolic Logic		<i>J. Symbolic Logic</i>
Journal of Systems Management		<i>J. Syst. Manage.</i>
Law and Computer Technology		<i>Law Comput. Technol.</i>
Management Information Systems Quarterly		<i>Manage. Inf. Syst. Q.</i>
Management Science		<i>Manage. Sci.</i>
Mathematical Programming		<i>Math. Program.</i>
Mini-Micro Systems		<i>Mini-Micro Syst.</i>
Nachrichtentechnische Zeitschrift		<i>Nachrichtentech. Z.</i>
Operations Research		<i>Oper. Res.</i>
Pattern Recognition		<i>Pattern Recogn.</i>
Popular Computing		<i>Pop. Comput.</i>
Proceedings of the IEEE		<i>Proc. IEEE</i>
Proceedings of the SID		<i>Proc. SID</i>
Science		<i>Science</i>
Scientific American		<i>Sci. Am.</i>
SIAM Journal on Applied Mathematics		<i>SIAM J. Appl. Math.</i>
SIAM Journal on Computing		<i>SIAM J. Comput.</i>
SIAM Journal on Control		<i>SIAM J. Control</i>
SIAM Journal on Mathematical Analysis		<i>SIAM J. Math. Anal.</i>
SIAM Journal on Numerical Analysis		<i>SIAM J. Num. Anal.</i>
SIAM Review		<i>SIAM Rev.</i>
SID Journal		<i>SID J.</i>
Simulation		<i>Simulation</i>
Software-Practice & Experience		<i>Softw. Pract. Exper.</i>
Soviet Cybernetics Review		<i>Sov. Cybern. Rev.</i>
Theoretical Computer Science		<i>Theor. Comput. Sci.</i>

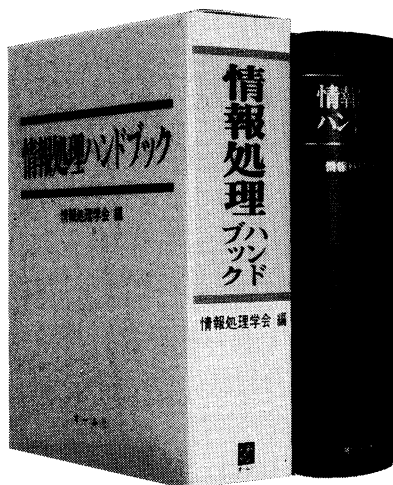
注) 一般的に会議論文集は次のように略記する。 Proc. **th 会議名 開催年 (例) Proc. 8th IJCAI 1990

付 録 2

情 報 処 理 学 会 関 連 の 英 文 略 記

誌	名	省 略 記 法
情報処理学会 (Information Processing Society of Japan)		<i>IPS Japan</i>
学会誌「情報処理」 (Journal of Information Processing Society of Japan)		<i>J. IPS Japan</i>
論文誌 (Transactions of Information Processing Society of Japan)		<i>Trans. IPS Japan</i>
欧文誌 (Journal of Information Processing)		<i>J. Inf. Process.</i>
旧英文誌 (Information Processing in Japan)		略記しない
全国大会 (The **th Annual Convention IPS Japan)		
全国大会論文集 (Proceedings of the **th Annual Convention IPS Japan)		<i>Proc. **th Annual Convention IPS Japan</i>
研究会報告 (IPSJ SIG Reports)		
功績賞 (IPSJ Contribution Award)		
論文賞 (IPSJ Best Paper Award)		
研究賞 (IPSJ SIG Research Award)		
奨励賞 (IPSJ Convention Award)		

●全分野をカバーしたわが国で最も権威あるハンドブック！



「情報処理ハンドブック」は、わが国で最も権威あるハンドブックとして長年にわたり情報処理のあらゆる分野に携わる方々に親しまれてきましたが、情報処理に関する学問・技術および応用の進展は急激かつ膨大であり、このたび全く新しい構想のもとに新版を発行致しました。

新しいハンドブックは、最近における情報処理の学問・技術・応用に関して、グローバルな視野に立ち、最も新しい知識と情報を提供するものです。

### 本書の特長

- 1 情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーしたわが国で最も権威のあるハンドブック！
- 2 情報処理技術とその応用分野の急激な発展・拡大をふまえ、全く新しい構想のもとに編集！
- 3 情報科学の基礎理論から関連規格に至るまで、体系的に整理された全17編構成によるアクセスしやすい・使いやすい編成！
- 4 最新の研究・技術の成果を積極的にとり入れ、可能な限り将来を見通した記述！
- 5 計算機アーキテクチャ、高水準インタフェース、データベース、人工知能、情報通信、教育等、今日の重要なテーマを十分とり入れた内容！
- 6 関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また、専門外の読者でも容易に概念がつかめ、さらに深く進むための手引きとなるよう配慮！
- 7 適切な見出しと豊富な索引を付し、辞書的性格をもたせ、見やすさ・引きやすさを配慮！
- 8 各分野の第一線で活躍する研究者および技術者 300 余名による執筆！

# 情報処理 ハンドブック

情報処理学会 編  
オーム社 発行

B5判／1,620頁／定価33,990円

会員特価28,840円(消費税込) 千900

■会員特価希望の方は、情報処理学会に直接お申込み下さい。

### ■主要目次■

- 1編 計 算 の 理 論
- 2編 システム解析の基礎
- 3編 数 値 解 析
- 4編 ハードウェア
- 5編 計算機アーキテクチャ
- 6編 オペレーティングシステム
- 7編 データ工学
- 8編 コンピュータネットワーク
- 9編 プログラミングの基礎
- 10編 プログラミング言語の記述と処理系
- 11編 ソフトウェア工学
- 12編 人 工 知 能
- 13編 高水準インタフェース技術
- 14編 シ ス テ ム 論
- 15編 応 用 シ ス テ ム
- 16編 教 育
- 17編 規 格 と 資 料





今月の学会誌をお読みになったご感想・ご意見などを記入して、FAX または郵便にて学会誌編集係あてにお送りください。（記入欄が不足する場合は適宜別紙を追加してください。）

なお、皆さまのご意見をもとに、最も多くの会員の興味を呼び、分かりやすいと評価された記事の著者に「Best Author 賞（仮称）」を贈呈する予定です。

宛 先：FAX 03 (3584) 7925（本用紙を含む送信枚数 枚）

住 所 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

情報処理学会 学会誌編集係 御中

発信者：（ご芳名） （会員番号）

（ご所属） （電話番号）

1. 本号記事の中であなたが読まれた記事（多数読まれた場合は特に印象に残った記事），および本号全般についてのあなたの評価をご記入ください。

記事の 開始頁 番 号	総合 評価 ＊	記述が分 かりやす い ＊	内容が 興味深 い ＊	自分の研究・ 仕事に役に立 つ ＊	時機を 得た企 画だ＊	その他の感想あるいは 印象に残った理由等 (具体的にお書きください)
本 号 全 般 の 評 価						

＊評価は次の5段階でご記入ください。

5. 非常に良い 4. 良い 3. 普通／なんともいえない 2. 悪い 1. 非常に悪い
2. 学会誌の改善についてのご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。

「編集室」に掲載することがあります。その場合 ☐実名可, ☐匿名希望, ☐掲載不可

# 全国大会論文集継続購入申込書

平成 年 月 日

下記の通り、第 回より、全国大会論文集を継続購入で申し込みます。

- 1, 代金は ☐郵便振替, ☐銀行振込 (該当✓印) で支払います。  
(支払いは到着後1ヵ月以内に。校費払等はお申し出ください。)

セ ッ ト	合 計 金 額 円
郵便振替口座 東京5-83484 (必要なら振替用紙を送付します。)	
全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普0003774」	

- 2, 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。

請求書宛名 請求書品名  
(指定の用紙があればお送りください。)

通信欄

- 3, 担当者名 Tel. (内 )  
(担当者が交代した場合必ずご連絡ください。)

- 4 連絡先 ㊦106 東京都港区麻布台2-4-2 保科ビル3F  
(社) 情報処理学会 全国大会係  
Tel. 03-3505-0505 FAX 03-3584-7925

.....

〔送本先〕  
〔住 所〕 ㊦  
〔所属名〕  
〔氏 名〕 様  
〔Tel.〕